

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成24年6月
高岡市（富山県）

全体総括

○計画期間；平成19年11月～平成24年3月（4年5ヵ月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」を目指して各事業を実施し、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高めるとともに、中心商店街の魅力向上を図り、中心市街地の賑わい創出、交流人口の拡大に繋がる効果をもたらしている。

特に、平成21年の高岡開町400年記念事業、高岡古城公園整備事業の実施や中心市街地に点在する歴史、文化資産を活用した各種イベントの開催により、まちなかの交流人口が増加した。

これを契機に、高岡市の中心市街地に集積している歴史・文化資産の再認識がなされ、中心市街地に集積している伝統・歴史・文化への市内外の評価、関心が高まったと感じている。

空き店舗数については、「中心市街地における開業支援事業」により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られ、飲食店や若者向けファッション、雑貨店といった新たなジャンルの店舗が開業するなど大きな成果を上げた。また、高岡商工会議所による「たかおか屋」や、末広開発(株)による「町衆スタジオ」のほか、高岡のものづくりや伝統産業を紹介するクラフトショップ「D. front」、「テクテクたかおか」など、高岡の歴史・伝統・文化が感じられる特徴ある店舗が中心市街地で展開されるなど、開業支援制度によらない店舗・施設の立地が促進されるという波及効果をもたらしている。

中心商店街の核施設である御旅屋セリオにおいても、開業支援事業によってテナント入居が促進され、中心市街地の拠点性の維持・向上に貢献しており、回遊性の向上につながっている。

一方、予測を上回るペースで中心市街地の居住人口の自然減、および社会減が発生し、「まちなか居住支援事業」にかかる各種事業の実施も、居住人口の下支えに一定の役割を發揮したと考えられるものの、全体として増加させるには至らなかった。

また、中心市街地の居住人口は中心商店街の来街者数自体を底上げするものであり、居住人口の減少が歩行者通行量の伸び悩みの要因の一つとなっている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

計画に掲げた92事業のうち、35事業が完了、53事業が実施中、4事業が未実施の状況であり、事業進捗率は95.7%であり、概ね計画した事業は予定どおり実施し完了している。

これらの様々な事業を実施することにより、中心市街地の交流人口が増加基調となっており、市民か

らも中心市街地の歴史・文化や高岡らしい特徴を活かしたまちづくりの取り組みが評価されている。

また、都市福利機能についても、「交通利便性」「歩行環境の整備」「公園」「公共施設」といった面で改善が進んでおり、中心商店街の賑わいも創出されてきていることから、総合的に判断して活性化が図られていると考える。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(高岡市としての見解)

平成 23 年の観光客入込数は 1,185 千人であり、基準年となる平成 18 年との比較では 220 千人の増加となり目標数値に近い水準に達した。これについては、計画に掲げた高岡古城公園整備事業や高岡大仏保存修理事業などのハード事業や、瑞龍寺ライトアップ事業や文化遺産群を活用した各種イベントなどのソフト事業など様々な事業に取り組みにより高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高めたことや平成 21 年に高岡が開町 400 年の節目の年を迎え、年間を通じて多彩なイベントを開催したこと、平成 20 年に東海北陸自動車道が全線開通し、サービスエリアや名古屋での PR 活動を行ったことなどが要因と考えている。

また、中心商店街の空き店舗数は、平成 18 年の 46 店舗から平成 23 年には 25 店舗に減少し、目標値を上回る水準となっており、大きな成果を上げた。これについては、中心市街地における開業支援事業により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られたことによるところが大きいと考えている。

そして、中心商店街における歩行者・自転車通行量の平均値についても、平成 18 年 11,326 人から平成 23 年 12,913 人になり、長期的な減少傾向から歯止めが掛っている。これについては、特にウイング・ウイング高岡から御旅屋セリオを結ぶ末広通り西側の通行量が大幅に増加していることから、末広町電停整備事業、市営オタヤグリーンパーキング設置事業、ウイング・ウイング高岡運営事業などの 2 点間の回遊性向上に直結する事業が大きく貢献したと考えている。また、末広開発(株)まちづくり事業部が実施する中心市街地における各種イベントや朝市・夕市・フリーマーケットによる中心市街地の賑わい創出、開業支援による店舗数の維持・増加支援など、中心市街地への来街を促進するための機能充実の取り組みが中心市街地内の通行量を下支えしたと考えている。

一方、中心市街地の居住人口は、平成 18 年 17,597 人から平成 23 年 16,048 人と減少傾向に歯止めがかからない状況にある。要因としては、中心市街地では高齢者の人口割合が全市平均よりも高く、自然減が発生しやすい状況にあることや、20代～30代と未就学児～高校生の減少も発生し、子供と同居する世帯が郊外へ転出していることが推測される。また、中心市街地では、住宅地の地価は、近年下落が進み、むしろ隣接地区よりも安くなっているにも関わらず、狭隘な土地に古い住宅が密集し、住居と空き家が混在していることに加え、地籍境界の未確定、借地権や固定資産税等の問題により、まとまった広さの敷地を確保することが困難なことから、宅地開発やマンションや集合賃貸住宅の建設が進んでいないことが考えられる。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

計画における各事業の実施により、4つの目標指標のうち、「主要観光施設における観光客入込み数」、「中心商店街(6地点)における歩行者・自転車通行量の平均値」、「中心商店街(4商店街)における空き店舗数」においては、上昇ないし下げ止まりのトレンドを描いており、改善が進んでいると考えている。

当協議会においては、これまで協議会・幹事会・専門部会等を開催し、官民一体となった中心市街地活性化の取り組みについて議論を進めてきた。今後とも市民・民間事業者、商業者等が共有・共感できるまちづくりを目指し努力することが重要である。

5. 市民意識の変化

①市民意識調査

i) 調査実施時期 平成23年7月1日～7月19日

ii) 調査対象・方法

18歳以上の市民1,870人を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。763人から回答を得た(回収率40.8%)。

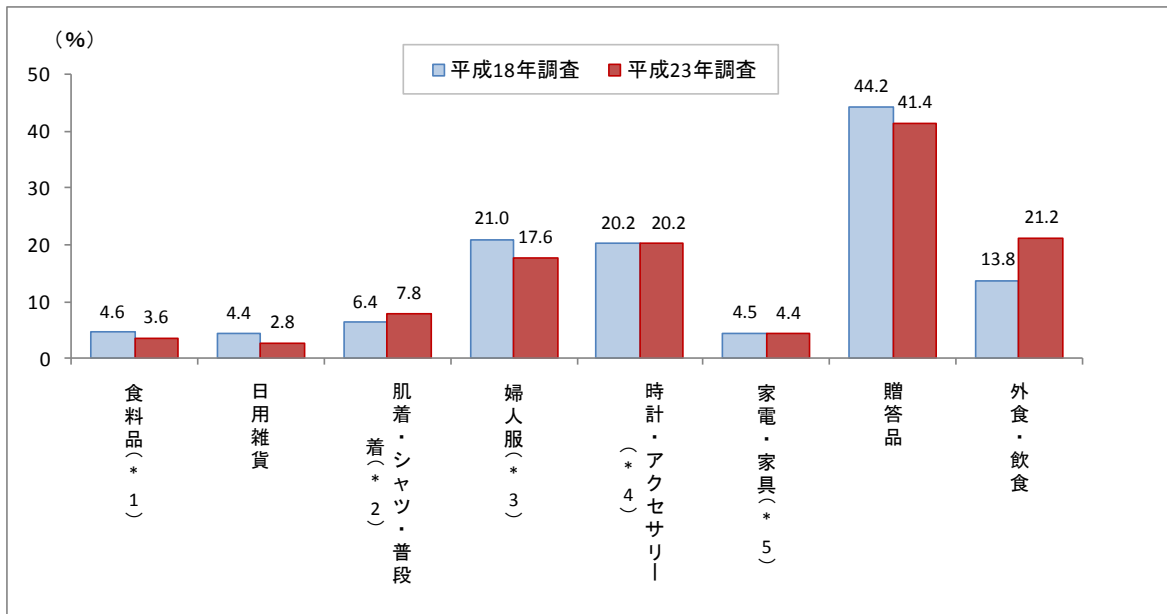
iii) 買物・飲食での中心市街地利用状況および中心商店街の商圈

買物・飲食等で中心市街地を最も多く利用する人の割合は、「贈答品」で41.4%、「飲食」で21.2%、「時計・アクセサリ」で20.2%、「婦人服」で17.6%となっている。これに対し、最寄品目で中心市街地を最も利用するという回答は極めて少ない。

平成18年に実施したアンケート結果と比較すると、購買にかかる部分については外出用の衣料品で若干の低下がみられるものの、全般的に大きな変化はなく、「買物」を目的として週に1回以上中心市街地を訪れるとの回答が27.9%あることと合わせ、市内全域を商圈(買回り品商圈=週末商圈)とする商業集積は維持されている。

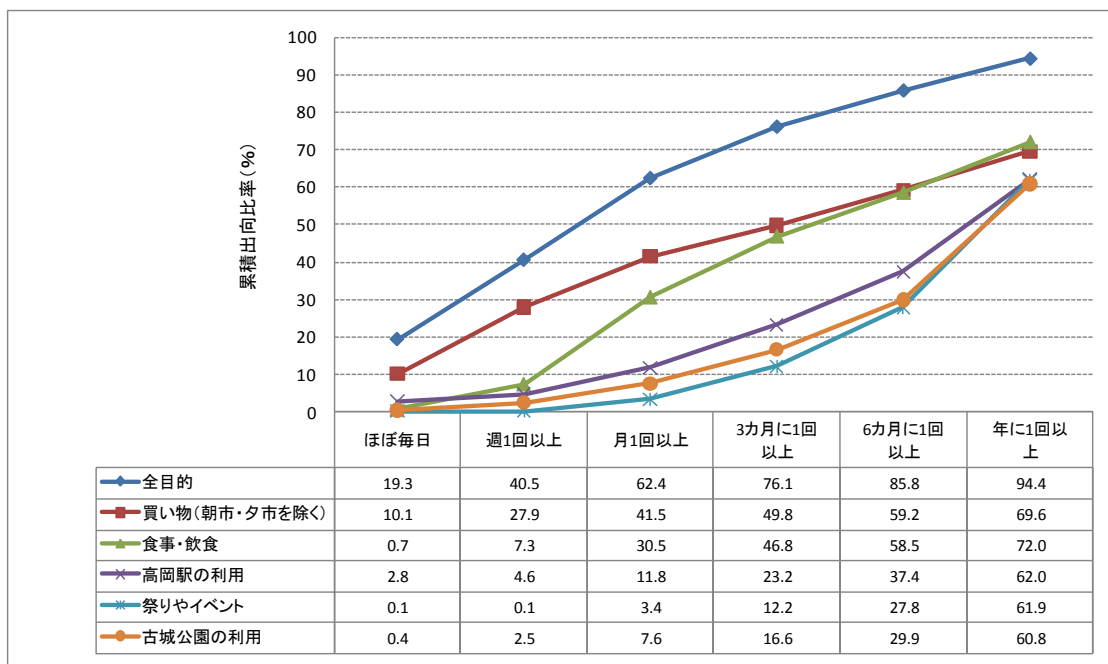
また、「飲食」については、中心市街地内で飲食店が増加したことにより、平成18年の13.8%が平成23年調査では21.2%と大幅に上昇していることに加え、「教育・教養サービス」「レジャー、娯楽」分野で回答者の約3分の1が「中心市街地に行く場合が多い」としており、商業以外の教養、文化、娯楽の場としても中心市街地が一定の位置付けを得ていることがわかる。

買い物・飲食での中心市街地の利用状況
(最も利用する場所として中心商店街・百貨店を挙げた割合)

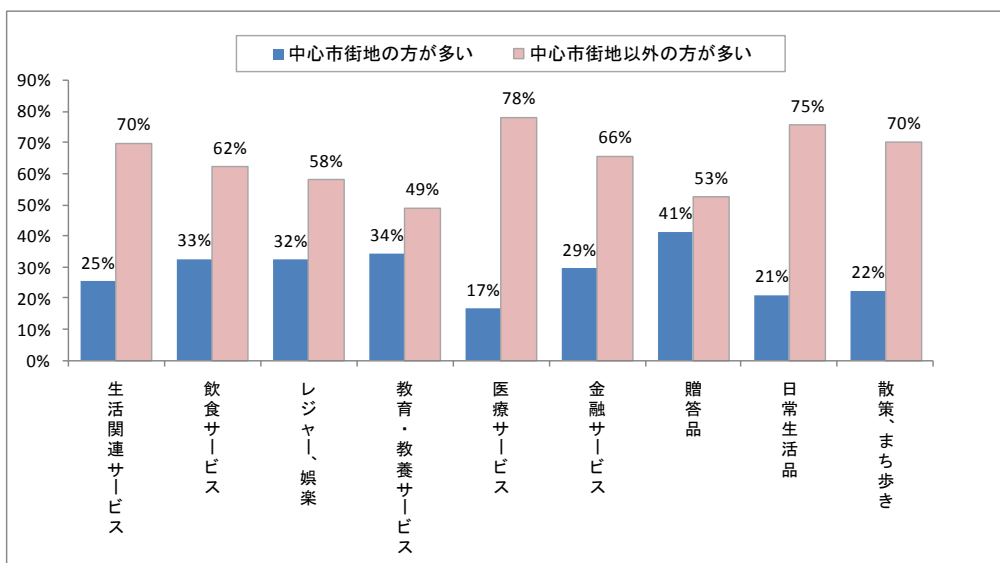


(*1) 平成 18 年は「日常の食料品」、(*2) 平成 18 年は「肌着・下着類」「普段着」の平均、(*3) 平成 18 年は「外出着」、(*4) 平成 18 年は「服飾雑貨」、(*5) 平成 18 年は「家具・インテリア」「家電製品」の平均

中心市街地に出かけることが多い目的の頻度別累積出向比率



他の地域と比較した中心市街地（全域）の選択状況

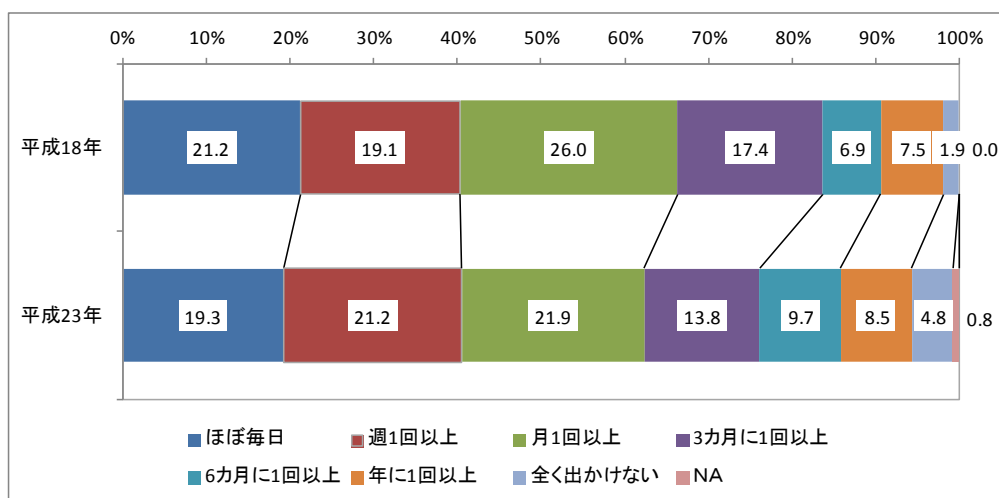


iv) 中心市街地への来街頻度

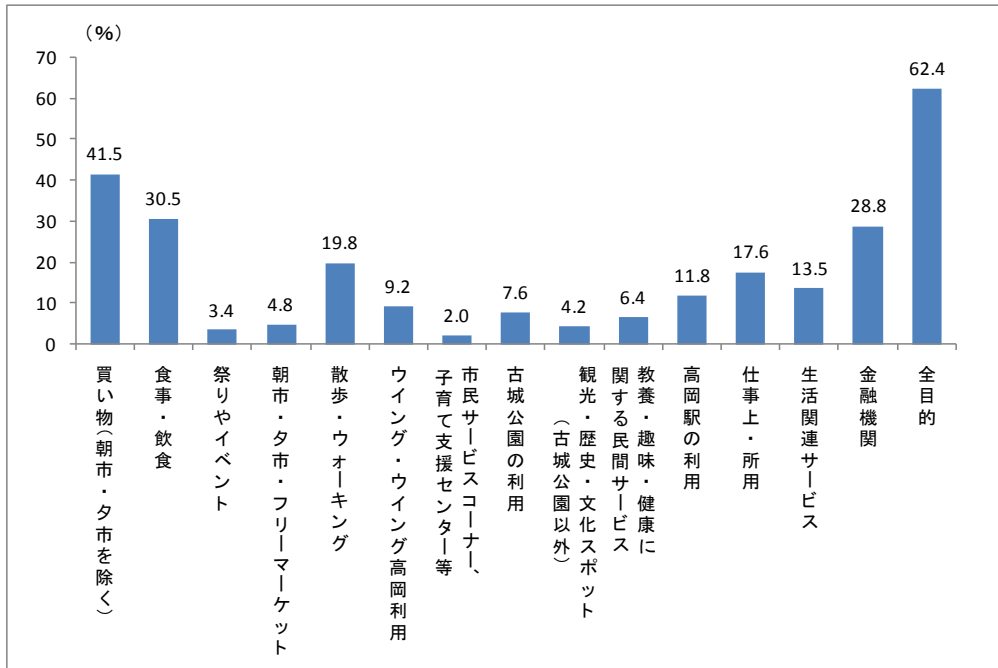
何らかの目的で中心市街地に出かける頻度は、「週に1回以上」で全回答者の約4割、「月に1回以上」で約6割、「3カ月に1回以上」で4分の3、「6カ月に1回以上」で85.9%となり、「全く出かけない」人の割合は4.8%にとどまる。即ち、ほぼ全市民が何らかの目的で最低でも1年に1回は中心市街地を訪れていることになる。但し、平成18年に実施したアンケート結果と比較して、中心市街地への来街頻度はやや低下している。

目的別の来街頻度については、当該行動の実施頻度が異なることから一概には言えないが、「買物」および「飲食」目的による来街頻度が高く、これらが中心市街地への主要な来街誘因となっている。

来街頻度（全目的）



1 カ月に 1 回以上来街する人の割合（目的別）



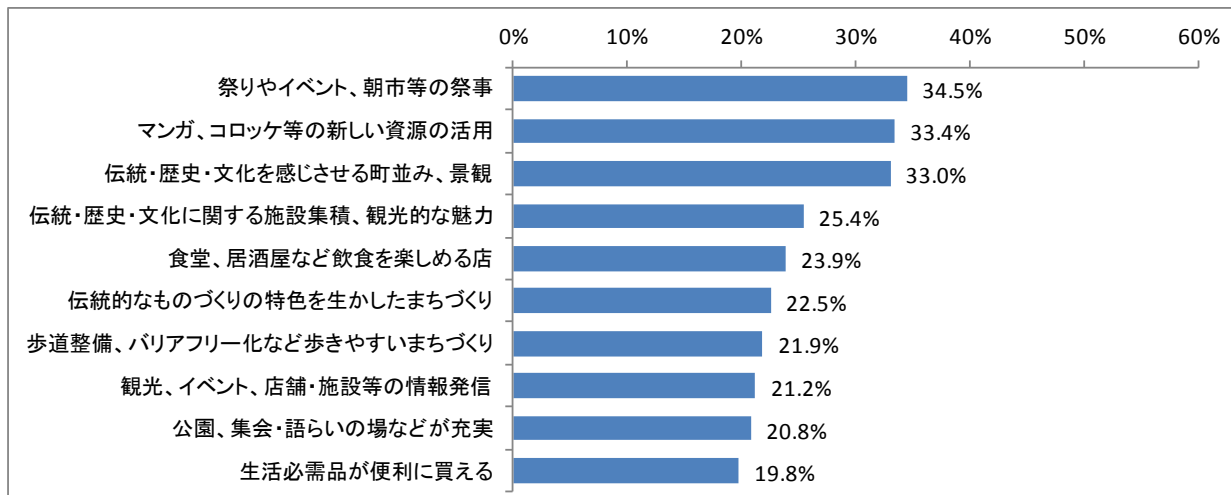
v) 中心市街地に対する現状認識及び改善の評価

中心市街地の現状認識および改善状況について尋ねたところ、現状については全般的に否定的な見方が多い中、「歴史的な町並み、景観」「祭り・イベントの実施」「マンガやコロッケ等の新しい資源を活かしたまちづくり」において市民の評価が比較的高く、中心市街地の歴史・文化や高岡らしい特徴を活かしたまちづくりの取り組みが評価されている。

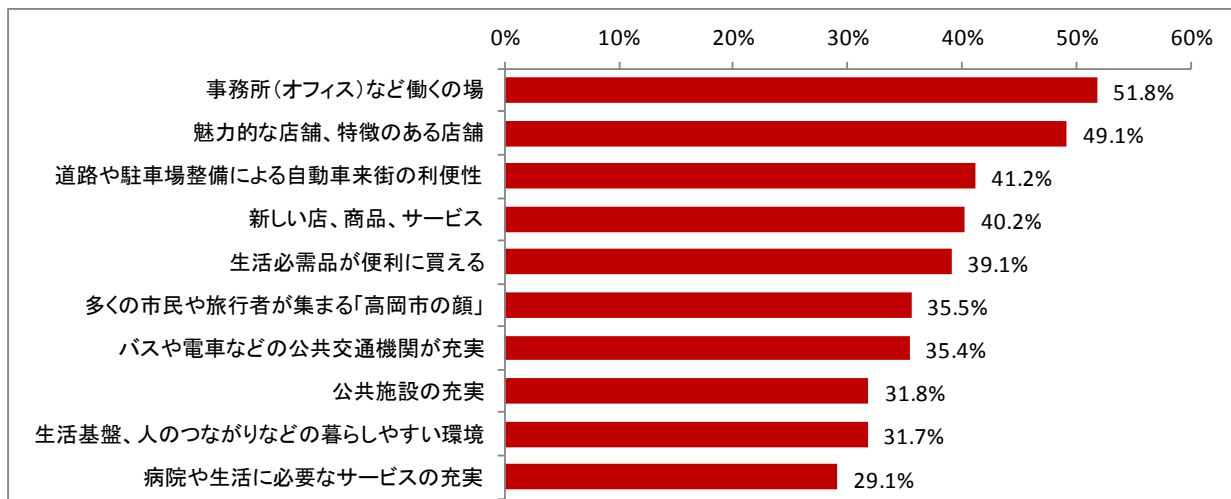
また、「交通利便性」「歩行環境の整備」「公園」「公共施設」といった都市福利機能についても、現状の評価が十分に高まっているとは言えないまでも「改善している」との評価がなされ、特に中心市街地居住者から一定の評価を得ている。このことから、中心市街地活性化に向けた各種環境整備の取り組みが、中心市街地居住者を中心として市民に浸透してきていることがうかがわれる。

他方、「業務機能」「店舗・新サービス」といった商業的、経済的な側面については総じて現状に対する評価が低いことにくわえ、「以前よりも悪化した」とする回答が多く、商業・産業面における中心市街地活性化の取り組み強化が求められていると言える。

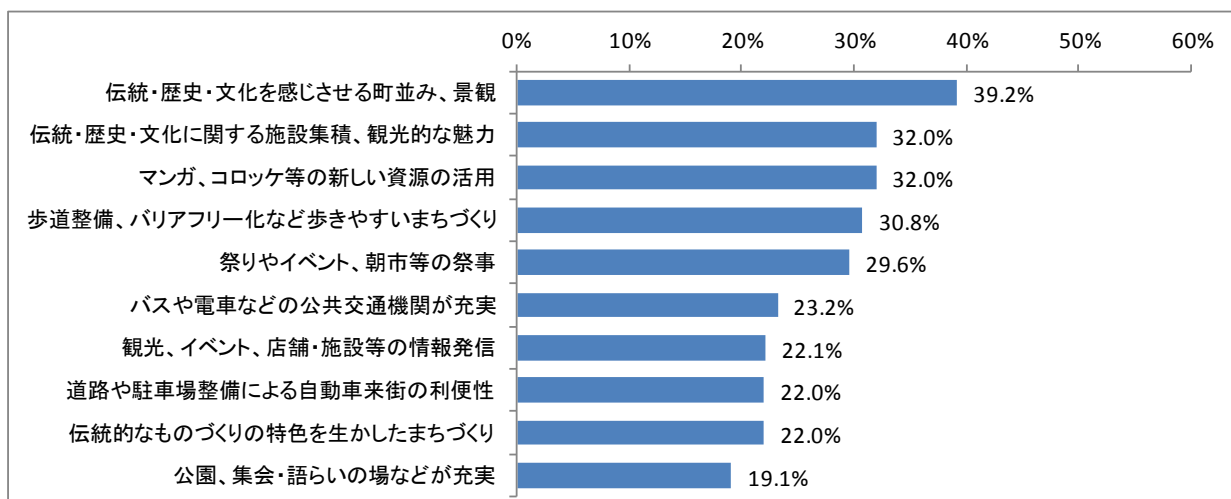
中心市街地の現状として比較的评价が高い項目



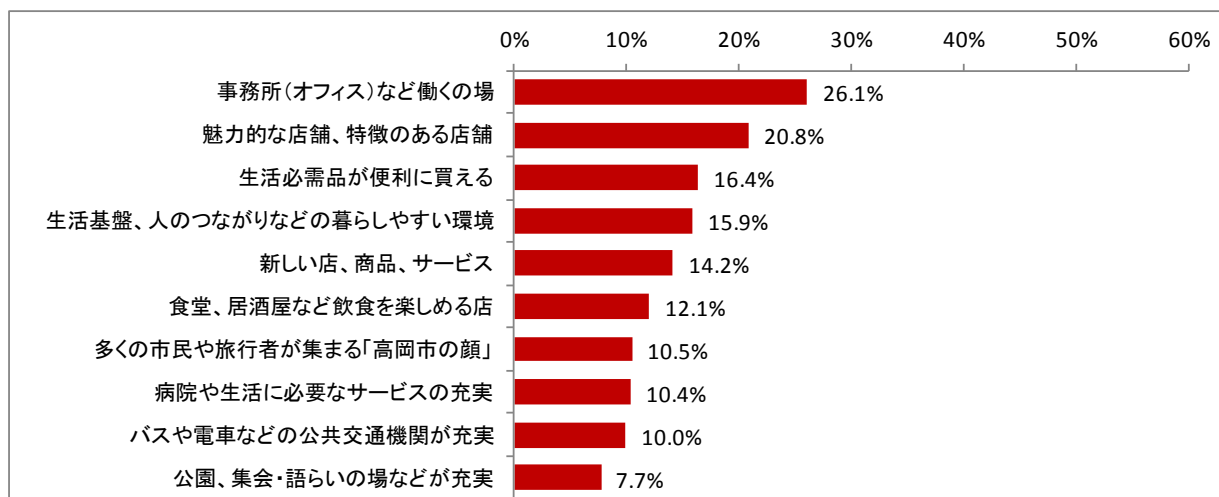
中心市街地の現状として評価が低い項目



中心市街地において「改善した」とする回答が多くみられた項目



中心市街地において「悪化した」とする指摘が多くみられた項目



②中心市街地来街者アンケート調査

i) 調査実施時期 平成 23 年 7 月 29 日・30 日

ii) 調査対象・方法

中心市街地内の 4 ヲ所（ウイング・ウイング高岡周辺、駅前地下自由通路、駅前バスターミナル周辺、御旅屋セリオ前）において、歩行者に対する直接面接方式により調査を実施し、555 人から回答を得た。

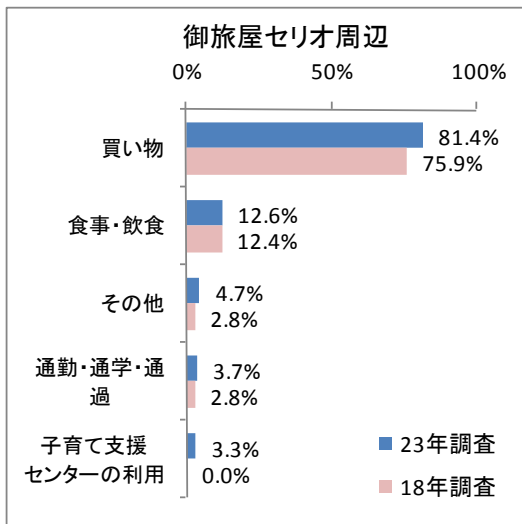
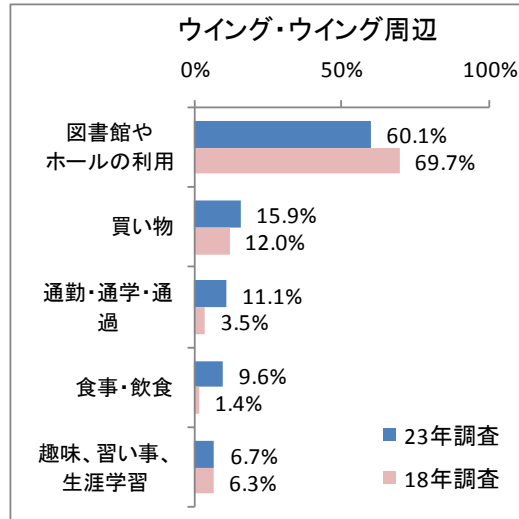
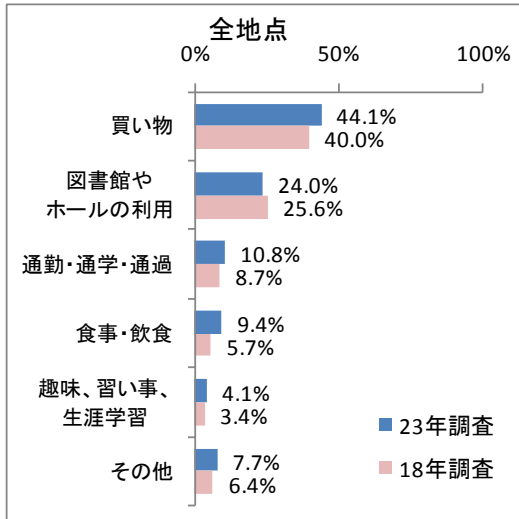
iii) 中心市街地の来街者の特徴

中心市街地への来街者目的は、「買物」が 44.1%、「図書館・ホールの利用」が 24%、「趣味、習い事、生涯学習」が 4.1%となっており、御旅屋セリオおよびウイング・ウイング高岡が集客の拠点として機能している。また、中心市街地において飲食店が増加したことにより、「飲食」を目的とする来街者が 9.4%となり、平成 18 年調査と比較して増加した。

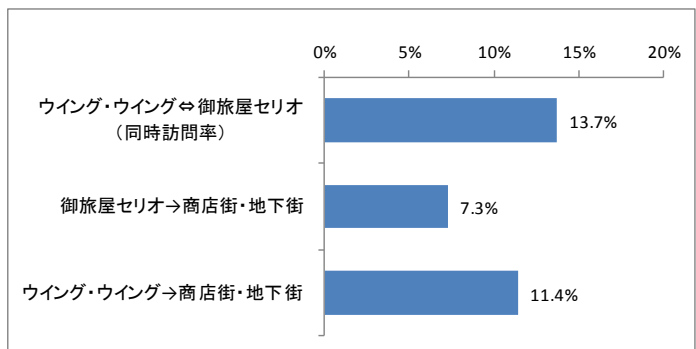
御旅屋セリオ～ウイング・ウイング高岡間の双方向による回遊割合は 13.7%となっており、2 拠点間で一定割合の回遊が発生していることが確認された。

来街者の滞在時間については、回答者の約 6 割が「1 時間未満」としており、平成 18 年調査から大きな変化はみられなかった。但し、ウイング・ウイング高岡周辺における回答者では「2 時間以上」とする回答がやや増加しているのに対し、御旅屋セリオ周辺における回答者では「30 分未満」が増加し、滞在時間が短くなっている。御旅屋セリオ周辺の買物目的による来街者の購入品目として「食料品」の回答割合が増加していることを考慮すれば、御旅屋セリオが周辺住民の日常的な買物の場として機能している度合いが高まっているものと考えられることができる。

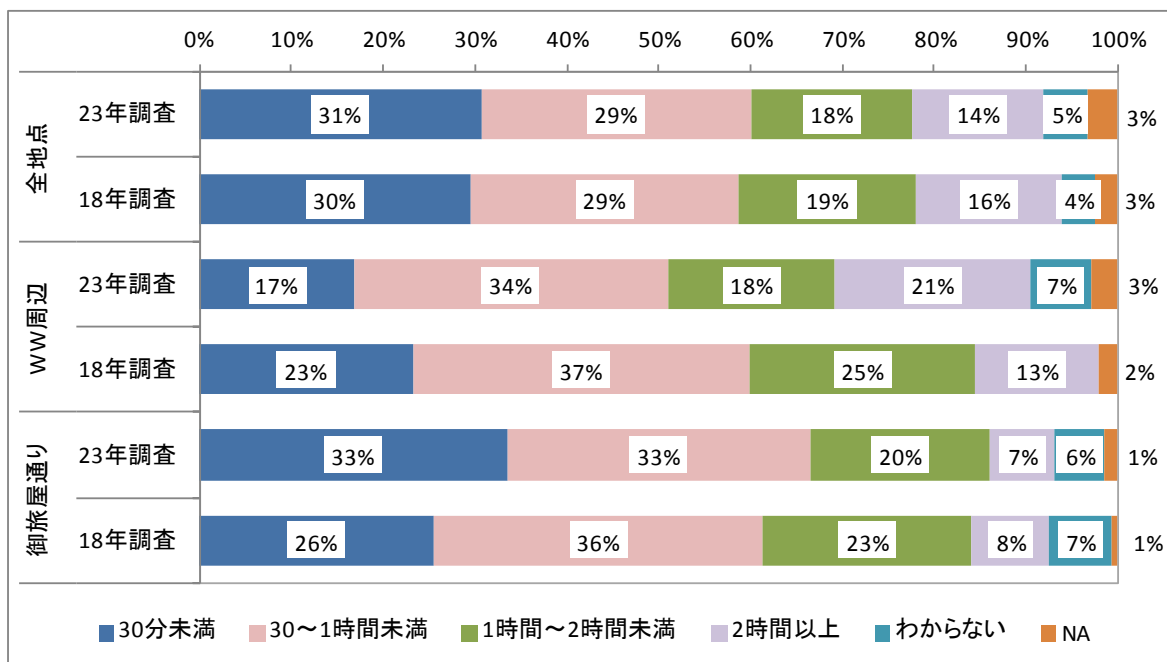
中心市街地への来街目的



来街者の回遊性



来街者の滞在時間

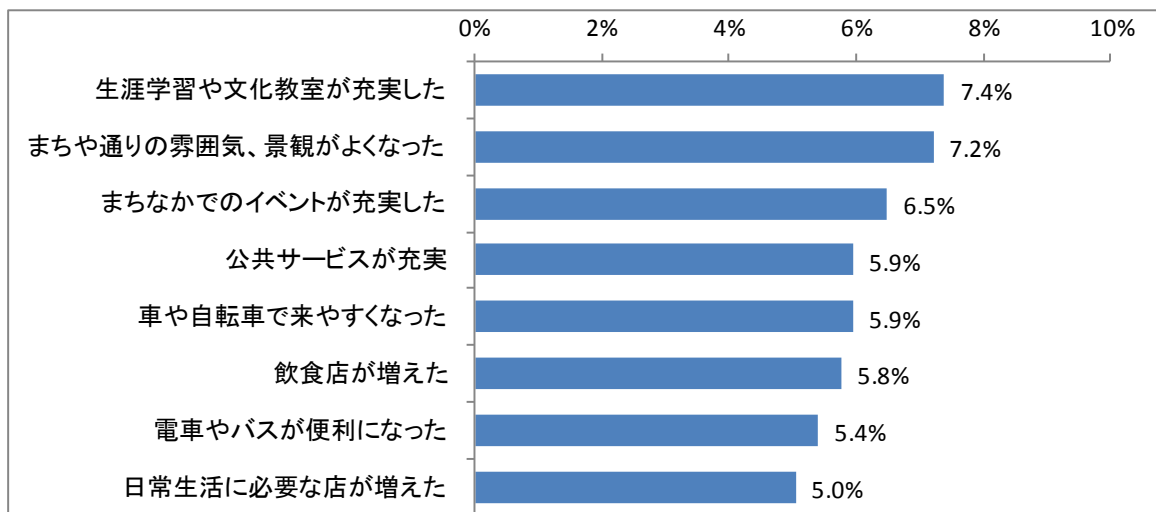


iv) 中心市街地活性化の取り組みに対する評価

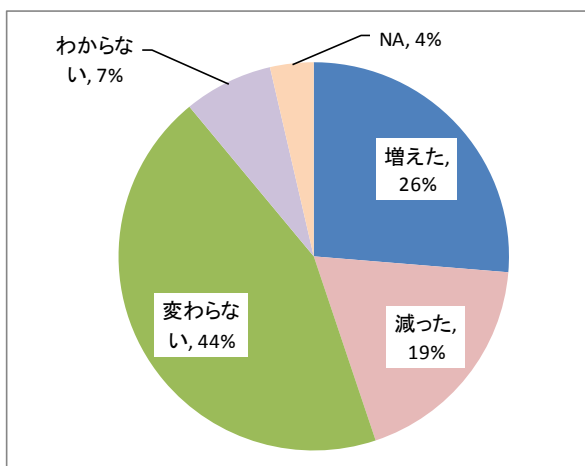
これまでの中心市街地活性化の取り組みに対し、市民意識調査と同様に「文化・学習活動」「まちの雰囲気・景観」「イベントの充実」「公共サービス」「交通利便性」について「良くなっている」との評価が比較的多く、特に「来街頻度が増加した」と回答した者においてこれらの事項が「良くなっている」として評価する傾向がみられた。

また、来街頻度の変化については、「増加」が「減少」を約7ポイント上回る結果となっているが、市民意識調査において中心市街地への来街頻度が低下していることや、「買物」「飲食」においては「増加」とした回答数以上に「減少」とした回答数が存在していることから、目的に応じて来街頻度が増加した人と減少した人とに分化しているものと考えられる。

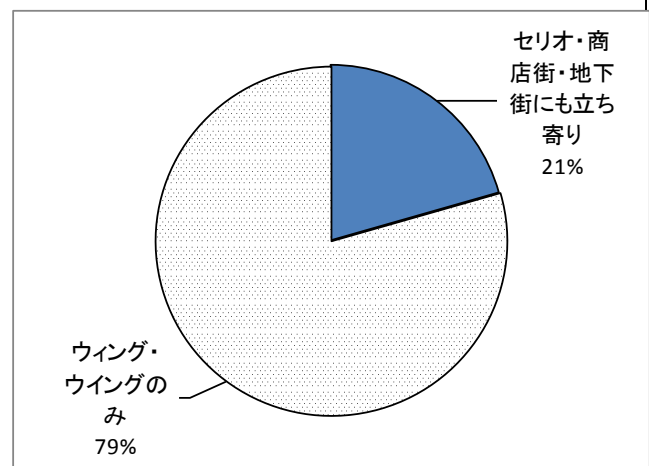
中心市街地で「良くなった点」



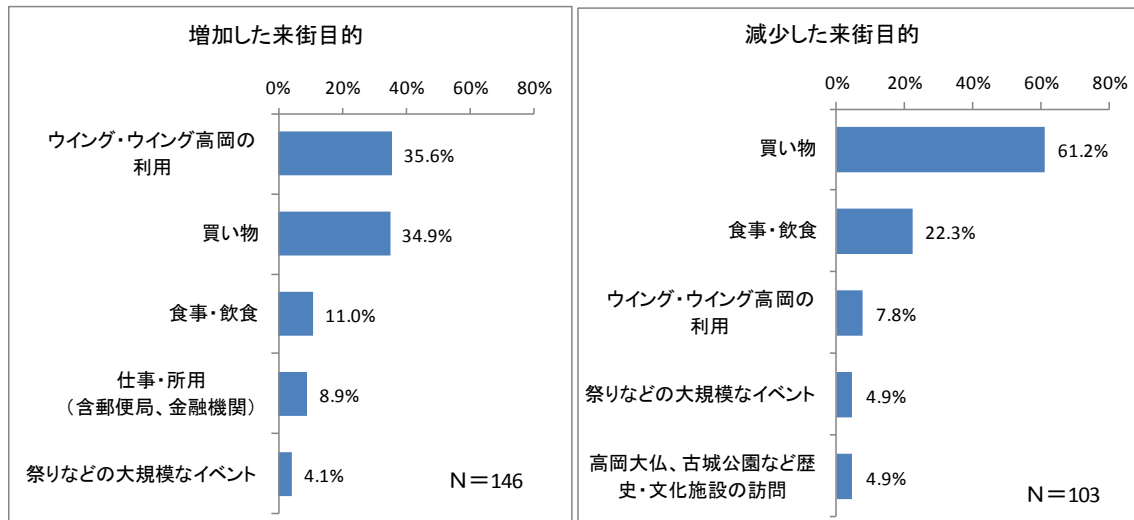
来街頻度の変化



ウイング・ウイング 高岡来館者の中心市街地内他施設訪問率



頻度が変化した来街目的



③まちなか居住者アンケート調査

i) 調査実施時期：平成 23 年 8 月 30 日～9 月 15 日

ii) 調査対象・方法

中心市街地及びその周辺部（平米地区、定塚地区、下関地区、博労地区、川原地区、成美地区の各一部）の 18 歳以上の居住者 1,500 名を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。719 人から回答を得た（回収率 47.9%）。

iii) 中心市街地の居住環境に対する評価

地域の「住みよさ全般」については、86%が「住みよい・どちらかという住みよい」と回答し、平成 18 年に実施したまちなか居住者アンケート調査と同様の結果となった。

また、回答者全体の約 7 割が「今後もまちなかに居住したい」と回答し、市外を含めたまちなか以外への移転を希望する回答は 1 割未満と極めて少なく、まちなかへの強い居住意向があることが確認された。

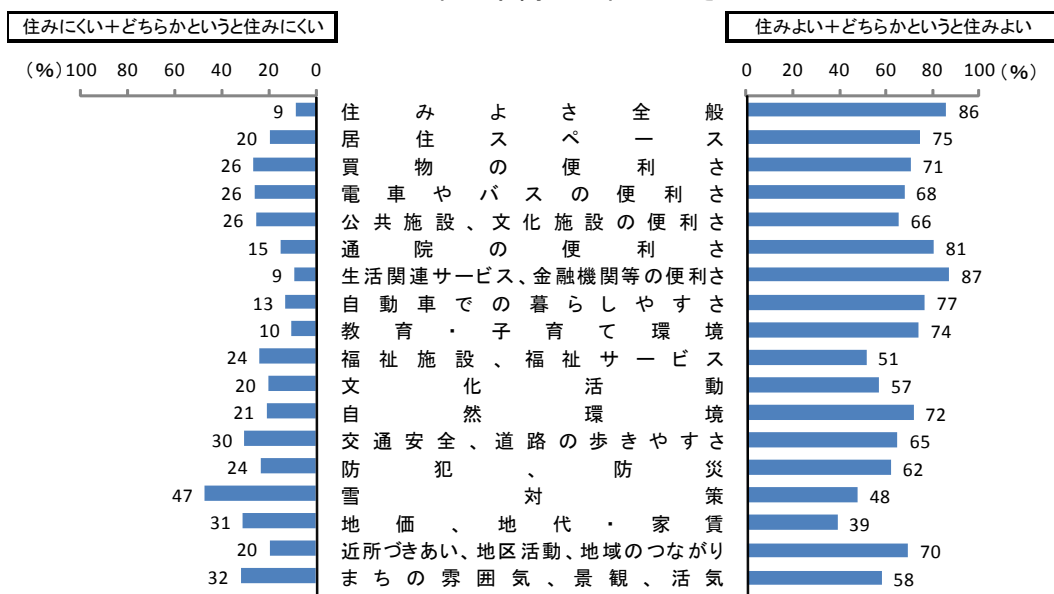
アンケートにおいて質問した項目のうち、「住みよい・どちらかと言えば住みよい」とする回答が半数を下回っているものは「地価、地代・家賃」（39%）と「雪対策」（48%）であり、中心市街地居住の高コスト構造、高齢化が進む中心市街地での除排雪が障害要因として指摘されている。

また、「福祉施設、福祉サービス」「まちの雰囲気、景観、活気」「文化活動」「防犯・防災」「公共施設、文化施設の便利さ」「電車やバスの便利さ」「交通安全、道路の歩きやすさ」といった項目は、1 割以上の回答者が「改善した事項」として当該項目を選択していることから、市街地の整備・改善にかかる事業の実施や交通利便性の向上に向けた各種取り組みの成果が居住者に浸透したと考えることができる。

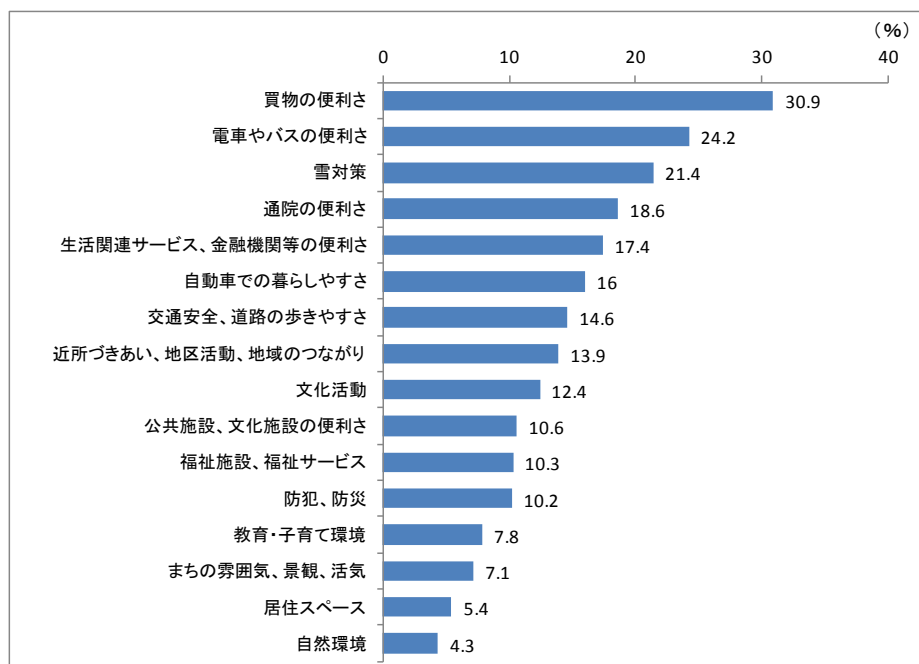
さらには、居住環境で改善した事項として「買物」が最も多く選択されており、中心市街地における空き店舗数の減少や定期的で開催している朝市・夕市等の日

常生活品の購入機会の提供が、中心市街地居住者の日常生活を支える手段として評価されているものと解することができる。

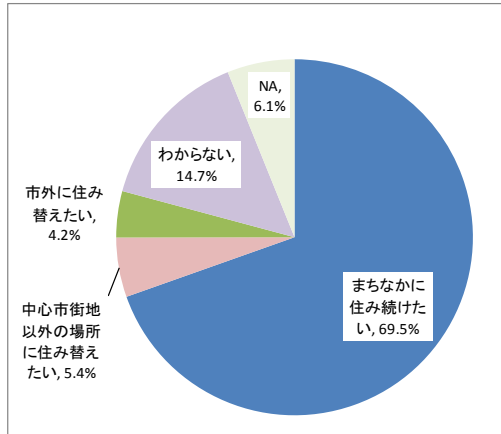
中心市街地の住みよさ



まちなかの居住環境について「良くなったもの」



まちなかへの居住意向



6. 今後の取組

①世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり

中心市街地には開町以来、長い歴史の中で守り育んできた瑞龍寺、山町筋、前田利長墓所、高岡古城公園、金屋町といった貴重な歴史・文化資産が保存・継承されている。

富山県内において、都市性と歴史性の双方を内包する都市は他にはないことから、国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となり、本市の優れた歴史・文化資産の保存と調査に努めるとともに、核となる施設の整備や文化財周辺の景観整備、市民意識の醸成、観光資源としての活用を図り、観光客がまちなかを回遊する仕組みを構築する。

②便利で住みよく快適なまちづくり

中心市街地には、都市福利施設や公共交通網が集まっており、利便性の高いまちが形成されている。また、高岡御車山祭をはじめとした数多くの伝統行事が残されており、それらを保存・継承していくことが、地域アイデンティティを確立していくために有効である。一方で、早期にまちが形成され、非震災都市であるが故のマイナス面（例：老朽化した建築物や狭隘な道路など）もあることも認識されており、それが、郊外への転出要因となっている。

そのためにも、マイナス要因を改善するとともに、プラス要因の更なる充実により、まちなかの快適な居住環境の充実を推進する。

③活力と賑わいあふれるまちづくり

消費者の購買行動の変遷により商業活動の中心は、郊外的大型店へと移り、また、車社会やITの進展とあいまって、事業所等の転出も多く、従来の呉西地域の拠点都市としての位置づけは薄くなっている。

平成26年度に、北陸新幹線が金沢まで開業することを契機に、飛越能86万人の玄関口として、魅力あふれるまちづくりを進めることが重要である。

商業環境においても高岡市の中心市街地でしか体験できない独自性の高いまちづくりに

取り組むことが必要である。

そのためには、万葉線など公共交通の利便性向上を図りつつ、豊富な地域資源を活用することにより、商業者・商店街の魅力や活力を引き出すとともに、来街者が多く訪れ、まちなかを楽しく歩く仕組みづくりに取り組み、まちなかに賑わいを創出する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大	主要観光施設における観光客入込み数	965,161 人	1,220,000 人	1,184,889 人	H24年2月	B
まちなか居住の推進	中心市街地における居住人口	17,597 人	17,800 人	16,048 人	H24年3月	<u>C</u>
中心商店街の賑わい創出	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値	11,326 人	13,500 人	12,913 人	H23年12月	B
	中心商店街(4商店街)における空き店舗数	46件	37件	20件	H23年12月	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

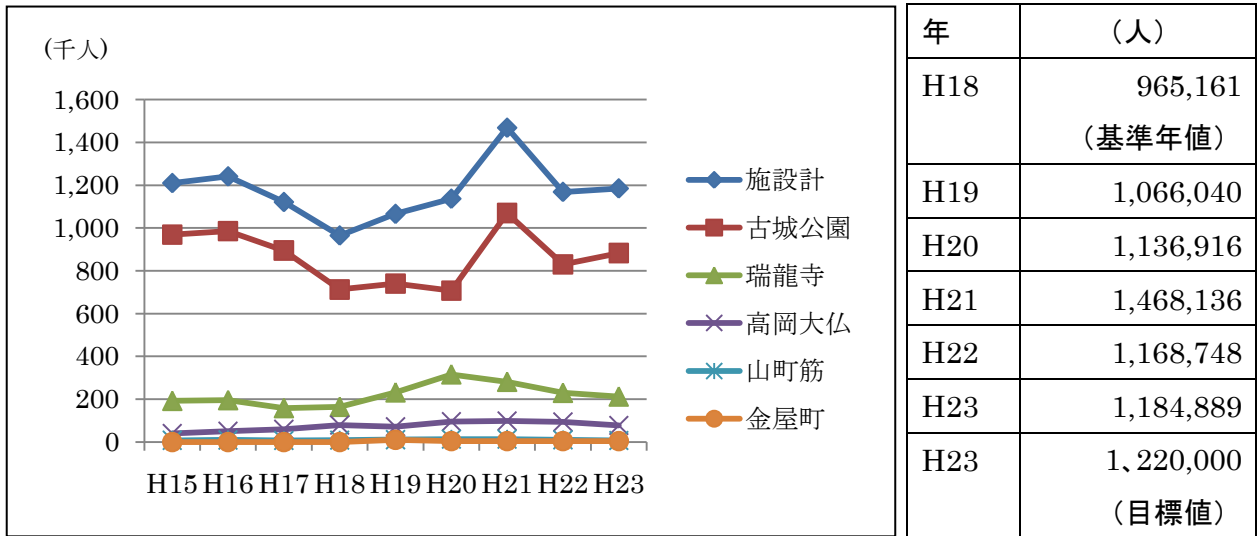
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大」

「主要観光施設における観光客入込み数」※目標設定の考え方基本計画 P43～P50 参照

1. 調査結果の推移



中心市街地における主要観光施設ごとの観光客入込み数

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	施設目標値
古城公園	712,800	740,450	707,000	1,070,050	830,400	883,100	830,000
瑞龍寺	165,000	232,120	316,100	281,500	230,030	212,934	199,000
高岡大仏	79,000	72,000	96,000	99,000	93,700	77,440	119,000
山町筋(菅野家・土蔵造りのまち資料館)	8,361	11,292	13,609	13,643	10,502	6,926	20,000
金屋町(鑄物資料館)		10,178	4,207	3,943	4,116	4,489	5,000
施設計	965,161	1,066,040	1,136,916	1,468,136	1,168,748	1,184,889	※1,173,000

※主要観光施設入込数の目標値(122万人)との差は、相乗効果による増加想定数

主要観光施設全てにおいて平成18年から平成22年の入込数が増加していることや、市民アンケートにおいて観光地としての魅力向上を評価する回答が多くみられ、市民の間で観光による中心市街地の活性化が実感できる状況になっていることを踏まえれば、「歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大」にかかる各種事業の実施は、それらが複合的に関連し、中心市街地活性化に大きく貢献したと評価することができる。

特に、平成21年には、高岡が開町400年の節目の年を迎え、「高岡開町400年記念事業」により年間を通じて多彩なイベントを開催したことにより、過去最高の入込数となる147万人を記録し、関連事業実施期間中の中心市街地は大きな賑わいを見せた。

平成23年については3月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したと考えられるが、対基準年比で

みると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。

※調査方法；施設毎の入込数を集計

※調査月；2月

※調査主体；高岡市

※調査対象；高岡古城公園、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館）、金屋町（鋳物資料館）

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

i) 高岡古城公園への観光客数の増加

①. 高岡開町 400 年記念事業（事業主体：高岡開町 400 年記念イベント実行委員会）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 20～21 年度
事業開始・完了 時期	平成 19～21 年度
事業概要	平成21年に高岡開町 400 年を迎えることから、記念事業を開催した。
目標値・最新値	古城公園 観光客入込み数 目標値 830,000 人 最新値 883,100 人
達成状況	目標値を達成した。
達成した（出来 なかった）理由	開町 400 年である平成 21 年は、記念イベントを合わせ、古城公園の観光客入込数が 107 万人に達しており、年間を通じて多彩なイベントを開催した効果によるものと考えられる。 また、園路整備および駐車場の整備による利便性の向上が図られ、入込数の底上げに寄与したと考えられる。
計画終了後の状 況（事業効果）	古城公園の価値の再評価の契機となり、事業実施後の通年入込客数の底上げに寄与している。
高岡開町 400 年 記念事業の今後 について	当該事業は終了とする。今後は、この取り組みで再認識された高岡の歴史・文化の一つ一つを磨き上げ、歴史・文化資産を観光資源として活用する。

ii) 瑞龍寺への観光客数の増加

①. 瑞龍寺ライトアップ事業（事業主体：ライトアップ実行委員会、瑞龍寺夜の祈り実行委員会）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 20～23 年度
事業開始・完了 時期	平成 12 年度～【実施中】

事業概要	「瑞龍寺 100 万人構想」のもと、瑞龍寺のライトアップを行う。
目標値・最新値	瑞龍寺観光客入込み数 目標値 199,000 人 最新値 212,934 人
達成状況	目標値を達成した。
達成した（出来なかった）理由	夏季のライトアップ期間の延長、及び冬季の開催、前田利長墓所の国史跡指定による瑞龍寺の魅力向上及びPRの取り組みによると考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	瑞龍寺の観光客入込み数が増加（平成 23 年で対基準年比 48 千人増）しており、全体の底上げに寄与している。
瑞龍寺ライトアップ事業の今後について	第 2 期計画でも開催回数を増やすなどして継続して実施する予定としている。

iii) 高岡大仏への観光客数の増加

①. 高岡大仏観光バス駐車場整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度
事業概要	日本三大仏・高岡大仏への団体観光客の増大及び滞留時間の延長を図るため、高岡大仏近隣に観光バス専用の無料駐車場を整備する。
目標値・最新値	高岡大仏観光客入込み数 目標値 119,000 人 最新値 77,440 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	高岡大仏の観光客入込み数増加にかかる事業については、駐車場方向からの新たな動線の形成や保存修理事業を通じた魅力向上、さらには高岡市全体の観光客入込数底上げによって一定の成果を上げたものの、その増加ペースは当初見込みを下回る水準となっており、目標を達成できなかった。 合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	年間約 1,300 台の利用実績があり、観光入込み数全体の底上げに寄与している。
高岡大仏観光バス駐車場整備事業	実施済み

業の今後について	
----------	--

②. 観光バス市営駐車場料金補助事業（事業主体：(社)高岡市観光協会）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	大型バスが駐車可能な市営駐車場(高岡中央、御旅屋)を利用する観光バス事業者に対し、利用料金の助成を行う。
目標値・最新値	高岡大仏観光客入込み数 目標値 119,000 人 最新値 77,440 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	高岡大仏の観光客入込み数増加にかかる事業については、駐車場方向からの新たな動線の形成や保存修理事業を通じた魅力向上、さらには高岡市全体の観光客入込数底上げによって一定の成果を上げたものの、その増加ペースは当初見込みを下回る水準となっており、目標を達成できなかった。 合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	延べ利用実績は、平成 19 年度 426 台、平成 20 年度 576 台、平成 21 年度 518 台、平成 22 年度 562 台、平成 23 年度 623 台となっており、観光入込み数全体の底上げに寄与している。
観光バス市営駐車場料金補助事業の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

iv) 山町筋への観光客数の増加

①. 山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	伝統的建造物群保存修理等事業 平成 13 年度～
事業開始・完了時期	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区内において、伝統的な土蔵造り

	の町並みを保存するため、伝統的建造物の修理事業及び非伝統的建造物の修景事業等を実施する。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。</p> <p>また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。</p> <p>合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	平成 19 年度以降の保存修理個所数（13 カ所）と観光客入込数との間に正の相関関係がみられ、基準年～平成 22 年の山町筋への観光客入込数増加分約 2,200 人は本事業が貢献したと考えられる。
山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

②. 山町筋周辺の市道整備（市道鴨島町木舟町線整備事業、市道木舟町大坪町一丁目線整備事業、市道堀上町金屋町線整備事業、市道堀上町中島町線整備事業、市道片原横町川原本町線整備事業、市道片原町川原町 1 号線整備事業、市道片原町川原町 2 号線整備事業、市道坂下町大町線整備事業、市道片原町本郷一丁目線整備事業）（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	<ul style="list-style-type: none"> ・市道鴨島町木舟町線整備事業 まちづくり交付金 平成 19～21 年度 ・市道木舟町大坪町一丁目線整備事業 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業、道路事業） 平成 19～23 年度 ・市道堀上町金屋町線整備事業 まちづくり交付金 平成 19 年度 ・市道堀上町中島町線整備事業 まちづくり交付金 平成 20 年度
-------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・市道片原横町川原本町線整備事業 まちづくり交付金 平成 21 年度 ・市道片原町川原町 1 号線整備事業 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）平成 22 年度 ・市道片原町川原町 2 号線整備事業 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）平成 22 年度 ・市道坂下町大町線整備事業 まちづくり交付金 平成 19～21 年度 社会資本整備総合交付金（道路事業）平成 23～24 年度 ・市道片原町本郷一丁目線整備事業 社会資本整備総合交付金（道路事業）平成 23～24 年度
事業開始・完了時期	平成 19～24 年度
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区において、快適な町並み散策が可能となるよう、景観に配慮した道路整備を行う。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。</p> <p>また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。</p> <p>合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	市民意識調査における「高岡の伝統・歴史・文化を感じさせる町並みや良好な景観が形成されている」という問いに対し、33%が肯定的に評価、39.2%が改善しているとそれぞれ評価しており、山町筋のイメージ形成に貢献している。
山町筋周辺の市道整備の今後について	一部の路線を除き、事業は完了した。

v) 金屋町への観光客数の増加

①. 高岡市鑄物資料館運営事業（事業主体：高岡市教育委員会）

支援措置名及び 支援期間	なし
事業開始・完了 時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡鑄物発祥の地である金屋町において、市内の鑄物に関する資料を収集・展示する「鑄物資料館」を設置・運営する。
目標値・最新値	金屋町観光客入込み数 目標値 5,000 人 最新値 4,489 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	<p>金屋町においては、鑄物資料館開館初年の平成 19 年は、施設開館効果や無料開放期間を設けたため、観光客入込み数が 1 万人を超えたが、平成 20 年～平成 23 年は、4,000 人前後の横ばいで推移し、目標数値を下回っている。</p> <p>金屋町の伝統的な町家や石畳通りの風情を楽しむ人や、若手のものづくり作家が集い、作品を展示する「金屋町金属工芸工房・かんか」が開店し、金屋町に見どころが増えたことにより、通りを歩く少人数旅行客が見受けられるようになったが、金屋町周辺には観光バスを停める駐車場が無く、金屋町を団体ツアーが訪れ難いことが、入込み数の伸び悩みの要因と推測される。</p>
計画終了後の状 況（事業効果）	平成 23 年は 4,489 人を集客しており、金屋町における誘客拠点として観光客入込数増加に貢献している。
高岡市鑄物資料 館運営事業の今 後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

vi) その他の事業による波及効果

ア) 文化遺産群の歴史調査及び保存修理に関する事業

①. 高岡御車山保存修理事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	民俗文化財保存修理等事業 平成 17 年度～
事業開始・完了 時期	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	高岡市を代表する祭礼であり、重要文化財である高岡御車山祭の保存・継承を図るため、7 基ある高岡御車山の計画的な保存修理を行う。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数

	目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。</p> <p>また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。</p> <p>合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>御車山の保存・伝承は高岡御車山祭の根幹をなすものであり、御車山の保存修理により、御車山が色鮮やかに復元され、その華麗さが一層際立ち、御車山の魅力向上に寄与した。</p> <p>平成 23 年度において、高岡御車山祭には 138 千人が来場しており、中心市街地の賑わい創出に大きく貢献している。</p>
高岡御車山保存修理事業の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

②. 高岡大仏保存修理事業（事業主体：大仏寺）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度
事業概要	日本三大仏・高岡大仏の劣化が進んだことから、保存修理事業を実施する。
目標値・最新値	高岡大仏観光客入込み数 目標値 119,000 人 最新値 77,440 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>高岡大仏の観光客入込み数増加にかかる事業については、駐車場方向からの新たな動線の形成や保存修理事業を通じた魅力向上、さらには高岡市全体の観光客入込数底上げによって一定の成果を上げたものの、その増加ペースは当初見込みを下回る水準となっており、目標を達成できなかった。</p> <p>合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、</p>

	東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業実施後の平成 20 年度において、高岡大仏への観光客入込数が 24 千人増加しており、その後も平成 22 年度まで同様の水準が維持されていることから、高岡大仏観光バス駐車場整備事業との複合効果により、高岡大仏への観光客入込数増加につながっている。
高岡大仏保存修理事業の今後について	実施済み

③. 高岡御車山祭（事業主体：高岡御車山保存会）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 19～23 年度
事業開始・完了時期	従前より【実施中】
事業概要	高岡御車山は、慶長 14 年(1609 年)に前田利長が高岡に城を築いて町を開いた折、城下の町内の大町(山町)に与えたもので、祭礼の山車として奉曳されたのが始まりと言われている。毎年 5 月 1 日の関野神社の例大祭に、中心市街地で奉曳きされる。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。 また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。 合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 23 年度において、高岡御車山祭には 138 千人が来場しており、中心市街地の賑わい創出に大きく貢献している。
高岡御車山祭の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

④. 前田利長墓所詳細調査事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	埋蔵文化財等補助事業 平成 18～20 年度
事業開始・完了 時期	平成 18～20 年度
事業概要	富山県指定史跡「前田利長墓所」について、国指定史跡の指定を目指して学術調査を行う。
目標値・最新値	瑞龍寺観光客入込み数 目標値 199,000 人 最新値 212,934 人
達成状況	目標値を達成した。
達成した（出来 なかった）理由	夏季のライトアップ期間の延長、及び冬季の開催、前田利長墓所の国史跡指定による瑞龍寺の魅力向上及びPRの取り組みによると考えられる。
計画終了後の状 況（事業効果）	調査等の結果、平成 20 年 11 月 21 日に国文化審議会より国史跡指定の答申を得ることができ、平成 21 年 2 月 21 日に指定された。
前田利長墓所詳 細調査事業の今 後について	実施済み

⑤. 金屋町町並み保存に関する意向調査事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	なし
事業開始・完了 時期	平成 19 年度
事業概要	現在、住民憲章により「千本格子の町並み」が保存されている金屋町において、法令等の保存も含め、今後の町並み保存の手法等について、住民への意向調査を実施する。
目標値・最新値	金屋町観光客入込み数 目標値 5,000 人 最新値 4,489 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	金屋町においては、鋳物資料館開館初年の平成 19 年は、施設開館効果や無料開放期間を設けたため、観光客入込み数が 1 万人を超えたが、平成 20 年～平成 23 年は、4,000 人前後の横ばいで推移し、目標数値を下回っている。 金屋町の伝統的な町家や石畳通りの風情を楽しむ人や、若手のものづくり作家が集い、作品を展示する「金屋町金属工芸工房・かんか」

	<p>が開店し、金屋町に見どころが増えたことにより、通りを歩く少人数旅行客が見受けられるようになったが、金屋町周辺には観光バスを停める駐車場が無く、金屋町を団体ツアーが訪れ難いことが、入込み数の伸び悩みの要因と推測される。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成 24 年 4 月 25 日に伝統的建造物群保存地区に都市計画決定をし、重要伝統的建造物群保存地区選定を目指し準備をしている。</p>
金屋町町並み保存に関する意向調査事業の今後について	<p>実施済み</p>

イ) 文化遺産群の活用に関する事業

①. 高岡古城公園整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	<p>まちづくり交付金 平成 19～20 年度</p>
事業開始・完了時期	<p>平成 19～20 年度</p>
事業概要	<p>都市公園でもあり、文化遺産群のひとつでもある高岡古城公園の園路整備、および駐車場の整備を行う。</p>
目標値・最新値	<p>古城公園 観光客入込み数 目標値 830,000 人 最新値 883,100 人</p>
達成状況	<p>目標値を達成した。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>開町 400 年である平成 21 年は、記念イベントを合わせ、古城公園の観光客入込み数が 107 万人に達しており、年間を通じて多彩なイベントを開催した効果によるものと考えられる。</p> <p>また、園路整備および駐車場の整備による利便性の向上が図られ、入込数の底上げに寄与したと考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成 20 年度に駐車場および散策路の整備が完了し、翌年度の開町 400 年記念事業に寄与した。また、開町 400 年記念事業の来場者を除いた平成 21～23 年の増加については、本事業による寄与が大きいと考えられる。</p>
高岡古城公園整備事業の今後について	<p>第 2 期計画では、高岡古城公園の園路舗装を行い、歩いて回りやすい空間を創出する予定としている。</p>

②. 重要文化財菅野家住宅運営事業（事業主体：菅野家住宅保存活用協議会）

支援措置名及び 支援期間	なし
事業開始・完了 時期	平成10年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区における唯一の重要文化財建造物として、建物の一部を公開する。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	<p>目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。</p> <p>また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。</p> <p>合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。</p>
計画終了後の状 況（事業効果）	山町筋における重要な観光拠点として機能し、平成 23 年は 2,657 人を集客した。
重要文化財菅野 家住宅運営事業 の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

③. 高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業（事業主体：高岡市教育委員会）

支援措置名及び 支援期間	なし
事業開始・完了 時期	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区において、土蔵造りの建造物全体を公開している唯一の建造物として、施設を公開する。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	<p>目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測さ</p>

	<p>れる。</p> <p>また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。</p> <p>合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	山町筋における重要な観光拠点として機能し、平成 23 年は 4,269 人を集客した。
高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

④. 大学連携による伝統産業再生事業 [金屋町楽市開催事業]（事業主体：金屋町楽市実行委員会）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金 平成 20～21 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	高岡の地場産業である銅器工芸を生活空間に生かした、生活、工芸、産業が同居するゾーンミュージアムイベントを、高岡鋳物発祥の地である金屋町で開催する。
目標値・最新値	金屋町観光客入込み数 目標値 5,000 人 最新値 4,489 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>金屋町においては、鋳物資料館開館初年の平成 19 年は、施設開館効果や無料開放期間を設けたため、観光客入込み数が 1 万人を超えたが、平成 20 年～平成 23 年は、4,000 人前後の横ばいで推移し、目標数値を下回っている。</p> <p>金屋町の伝統的な町家や石畳通りの風情を楽しむ人や、若手のものづくり作家が集い、作品を展示する「金屋町金属工芸工房・かんか」が開店し、金屋町に見どころが増えたことにより、通りを歩く少人数旅行者が見受けられるようになったが、金屋町周辺には観光バスを停める駐車場が無く、金屋町を団体ツアーが訪れ難いことが、入込み数の伸び悩みの要因と推測される。</p>
計画終了後の状況	来場者数は、平成 20 年度 10,000 人、平成 21 年度 22,000 人、平成

況（事業効果）	22年度 23,600人、平成24年度 24,000人と年々増加しており、金屋町における賑わい創出はもとより、本市のイメージアップに繋がった。 ・平成23年度は、東京駅前にある丸ビル1階マルキューブで、金屋町楽市スタイルの工芸作品の展示・販売イベントを開催した。このイベント来場者が金屋町楽市を訪れたり、首都圏からのバスツアーが人気を博したりするなど、首都圏でのPR効果が観光客入込み数増加に貢献した。
大学連携による 伝統産業再生事業 〔金屋町楽市 開催事業〕の今後 について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑤. 「高岡御車山」臨時山倉設置事業（事業主体：高岡御車山保存会）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成20～23年度
事業開始・完了 時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡御車山の見学を天候に左右されずに行えるようにするとともに、前日の夜から展示しライトアップする宵祭りを実施する。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000人 最新値 6,926人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。 また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。 合わせて、平成23年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。
計画終了後の状 況（事業効果）	御車山祭り前夜から御車山をライトアップし、光り輝く美しい御車山として展示することで、御車山に施された金工・漆工等の優れた工芸技術による華麗な装飾を間近で見ることができることとなり、祭礼

	<p>の前夜に各山町で行われる宵祭を見て感じる機会ともなるなど、御車山祭りの魅力を一層高めるとともに、多くの人々が山町筋を巡る効果があった。</p> <p>御車山の来場者数が増加していることから、誘客要因として貢献した。</p>
「高岡御車山」 臨時山倉設置事業の今後について	第2期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

⑥. 中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業（事業主体：たかまちまつり実行委員会、高岡七夕まつり実行委員会、高岡万葉まつり実行委員会、日本海高岡なべ祭り実行委員会）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成19～23年度
事業開始・完了 時期	イベントによる【実施中】
事業概要	<p>中心市街地には、高岡御車山祭のほか、季節ごとに高岡を代表する4つの大型イベントが毎年開催されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高岡獅子舞大競演会 高岡市及びその周辺の獅子舞保存会の演舞(8団体程度) ・高岡七夕まつり 日本海側最大の七夕飾り、各種イベントの実施 ・高岡万葉まつり 万葉集全20巻朗唱の会、芸能発表、茶会など ・日本海高岡なべ祭り 日本最大のアルミ鍋、銅鍋を使った鍋を中心とした食のイベント
目標値・最新値	<ul style="list-style-type: none"> ・古城公園 観光客入込み数 目標値 830,000人 最新値 883,100人 ・高岡大仏観光客入込み数 目標値 119,000人 最新値 77,440人 ・山町筋観光客入込み数 目標値 20,000人 最新値 6,926人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、山町筋の無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。

	<p>合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。</p> <p>しかし、古城公園の観光客入込数は高岡開町 400 年事業が行われた平成 21 年に 107 万人に達しており、古城公園の価値の再評価の契機となり、事業実施後も通年入込客数の底上げに寄与している。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>4つの大型イベントの合計入込客数は、例年 40 万人を超えており、観光入込客数の底上げに寄与している。</p> <p>イベント来場者数と主要地点観光客入込数との間には強い正の相関関係がみられ、イベント実施による観光客入込数増加への貢献度は高い。</p>
中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業の今後について	<p>第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。</p>

⑦. 文化遺産活用イベント開催事業（事業主体：ライトアップ実行委員会、おもしろ市実行委員会、朝市実行委員会、未広開発㈱、土蔵造りフェスタ実行委員会、天神様実行委員会、お雛様実行委員会、金屋町自治会）

支援措置名及び支援期間	<p>中心市街地活性化ソフト事業 平成 19～23 年度</p>
事業開始・完了時期	<p>イベントによる【実施中】</p>
事業概要	<p>中心市街地に点在する各文化遺産の特性を生かしたイベントを開催するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瑞龍寺ライトアップ事業(事業主体:ライトアップ実行委員会)【再掲】 ・八丁道おもしろ市(事業主体:おもしろ市実行委員会) ・高岡朝市(事業主体:朝市実行委員会) ・大仏ごりやく市(事業主体:未広開発㈱) ・山町筋土蔵造りフェスタ(事業主体:土蔵造りフェスタ実行委員会) ・山町筋の天神様(事業主体:天神様実行委員会) ・山町筋のお雛様(事業主体:お雛様実行委員会) ・御印祭(事業主体:金屋町自治会)
目標値・最新値	<p>主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人</p>

達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	イベント来場者数と主要地点観光客入込数との間には強い正の相関関係がみられ、イベント実施による観光客入込数増加への貢献度は高い。 市民意識調査において、中心市街地の現状について尋ねたところ、「祭りやイベント、朝市等の祭事」への評価が最も高かったことから、本事業の実施が市民に浸透し、成果を上げている。
文化遺産活用イベント開催事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

⑧. 「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」の活動（事業主体：世界文化遺産をめざす高岡市民の会）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	「近世高岡の文化遺産群」の世界文化遺産登録の実現を目指し、文化遺産群への市民の関心並びに保護意識の醸成を図ることを目的とし、運動の普及啓発及び各種イベントの開催等を実施するもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	市民意識調査において、中心市街地の現状について尋ねたところ、「伝統・歴史・文化を感じさせる町並み、景観」、「伝統・歴史・文化に関する施設集積、観光的な魅力」への評価が比較的高かったことから、本事業の実施が市民に浸透し、成果を上げている。
世界文化遺産を	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

めざす高岡市民の会」の活動の今後について	
----------------------	--

⑨. 高岡御車山展示館建設事業（事業主体：高岡御車山保存会、高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡御車山を所有する山町地内において、文化財保護と公開の双方の観点から適正な運営が可能となる展示館を整備するための調査、検討を行うもの。
目標値・最新値	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	目標値を達成できなかった要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。 また、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。 合わせて、平成 23 年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 23 年度に基本設計が終わったところであり、平成 26 年度の完成後の事業効果が待たれる。
高岡御車山展示館建設事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

ウ) 文化遺産群の周辺環境整備に関する事業

①. 「8 月のクリスマス」記念館運営事業（事業主体：(社) 高岡市観光協会）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 17～21 年度

事業概要	高岡市内でロケのあった、映画「8月のクリスマス」のメイン会場を記念館として公開するもの。
目標値・最新値	金屋町観光客入込み数 目標値 5,000 人 最新値 4,489 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>金屋町においては、鋳物資料館開館初年の平成 19 年は、施設開館効果や無料開放期間を設けたため、観光客入込み数が 1 万人を超えたが、平成 20 年～平成 23 年は、4,000 人前後の横ばいで推移し、目標数値を下回っている。</p> <p>金屋町の伝統的な町家や石畳通りの風情を楽しむ人や、若手のものづくり作家が集い、作品を展示する「金屋町金属工芸工房・かんか」が開店し、金屋町に見どころが増えたことにより、通りを歩く少人数旅行者が見受けられるようになったが、金屋町周辺には観光バスを停める駐車場が無く、金屋町を団体ツアーが訪れ難いことが、入込み数の伸び悩みの要因と推測される。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>「8月のクリスマス」の撮影で使われたバイク、衣装等を展示し、平成 19 年度は約 4,000 人が来館し、観光客入込に寄与した。</p> <p>事業終了後は、若手のものづくり作家が集い、作品を展示する「金屋町金属工芸工房・かんか」として使用されており、金屋町の見どころの一つとなっている。</p>
「8月のクリスマス」記念館運営事業の今後について	実施済み

②. フィルムコミッション事業（事業主体：高岡フィルムコミッション）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	高岡市内における映画、ドラマ等のロケ誘致及び市内のロケの支援等を実施し、新たな誘客手段として活用するもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全

なかった)理由	国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況(事業効果)	<p>撮影場所の紹介やエキストラの提供等で協力を行い、映画やドラマ等の撮影に、年間10件～20件を誘致している。</p> <p>市内での撮影に協力した「8月のクリスマス」では、撮影地めぐりをする映画ファンが訪れ、「8月のクリスマス」記念館には、平成19年度は約4,000人が来館し、観光客の増加に寄与した。</p> <p>市民意識調査において「マンガ、コロケ、映画ロケ地などの新しい資源を活かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、約3分の1の市民が肯定的評価、改善評価をしており、実施成果が市民の間で実感されている。</p> <p>映画やテレビ等で高岡市が紹介され、高岡市の知名度アップ、イメージ向上、さらには観光客入込数増加に貢献している。</p>
フィルムコミッション事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

③. シルバーサロン坂下小路運営事業(事業主体:末広開発株)

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成19～23年度
事業開始・完了時期	平成13年度～【実施中】
事業概要	坂下町商店街の空き店舗を活用し、「高齢者に優しいまちづくり」を目指し、高齢者向けの飲食、講座の提供、イベント等の開催を行うもの
目標値・最新値	高岡大仏観光客入込み数 目標値119,000人 最新値77,440人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	<p>高岡大仏の観光客入込み数増加にかかる事業については、駐車場方向からの新たな動線の形成や保存修理事業を通じた魅力向上、さらには高岡市全体の観光客入込数底上げによって一定の成果を上げたものの、その増加ペースは当初見込みを下回る水準となっており、目標を達成できなかった。</p> <p>合わせて、平成23年度の実績が極端に落ち込んでいることから、東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことも要因として考えられる。</p>

計画終了後の状況（事業効果）	平成 23 年度に約 3,000 人が利用しており、高岡大仏の魅力向上に一定の効果があったと考えられる。
シルバーサロン 坂下小路運営事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

エ) 文化遺産群の回遊性の向上に関する事業

①. 地域生活基盤施設（地内各所）整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	まちづくり交付金 平成 18～20 年度
事業開始・完了 時期	平成 18～20 年度
事業概要	中心市街地の観光地を来訪する観光客のために、車両系、歩行系の誘導看板の設置を行うもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比で見ると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	主に歩行系の誘導看板を整備したが、歩行者通行量が下げ止まりを見せていることや、観光入込客数は増加基調にあることから、回遊性の向上に一定の効果があったと考えられる。
地域生活基盤施設（地内各所）整備事業の今後について	実施済み

②. 高岡駅南北自由連絡通路整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） 平成 16～23 年度
事業開始・完了 時期	平成 16～23 年度
事業概要	高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化に一体的に取り組

	<p>む中で、現駅の交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、南北自由連絡通路の整備を行う。</p>
目標値・最新値	<p>主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人</p>
達成状況	<p>達成できなかった。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成 23 年 8 月に供用開始され、本事業により、北陸本線によって分断されていた瑞龍寺～古城公園・高岡大仏・山町筋・金屋町間の回遊性が向上し、観光客入込数増加に大きく寄与することが期待される。</p>
高岡駅南北自由連絡通路整備事業の今後について	<p>実施済み</p>

③. 高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金(道路事業(街路)) 平成 16～24 年度</p>
事業開始・完了時期	<p>平成 16 年度～【実施中】</p>
事業概要	<p>高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化に一体的に取り組む中で、現駅の交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、北口歩行者専用道の整備を行う。</p>
目標値・最新値	<p>主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人</p>
達成状況	<p>達成できなかった。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。</p>
計画終了後の状況	<p>高岡駅南北自由連絡通路整備事業が完了し、今後、本事業の整備が</p>

況（事業効果）	進むことで、北陸本線によって分断されていた瑞龍寺～古城公園・高岡大仏・山町筋・金屋町間の回遊性が向上し、観光客入込数増加に大きく寄与することが期待される。
高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

④. たかおかナビプロジェクト事業（事業主体：たかおか観光戦略ネットワーク）

支援措置名及び支援期間	まちめぐりナビプロジェクト 平成19年度
事業開始・完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を含めた高岡市内の観光地の詳細な情報発信と回遊性の向上を図るため、携帯電話を活用した情報発信を行うもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000人 最新値 1,184,889人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	これを含む情報発信事業の実施が、高岡の情報を気軽に得ることができる手段となり、市民意識調査における「中心市街地の情報発信」の効果に対して約2割の市民が肯定的で、改善されている評価をしており、肯定的評価の割合は平成18年の前回調査時点よりも8ポイント上昇していることから、中心市街地の観光スポットやイベント等の認知度向上、イメージアップに貢献した。
たかおかナビプロジェクト事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑤. 地域に根ざした文化資産を活用した都市再生プロジェクト事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	全国都市再生モデル調査 平成19年度
-------------	-----------------------

事業開始・完了時期	平成 19 年度
事業概要	観光客と生活者の双方ともに波及効果が大きい高岡古城公園を核として、中心商店街や他の近隣文化遺産群との間を歩いて回りたくなるモデル事業を実施するもの。
目標値・最新値	古城公園 観光客入込み数 目標値 830,000 人 最新値 883,100 人
達成状況	目標値を達成した。
達成した（出来なかった）理由	開町 400 年である平成 21 年は、記念イベントを合わせ、古城公園の観光客入込数が 107 万人に達しており、年間を通じて多彩なイベントを開催した効果によるものと考えられる。 また、園路整備および駐車場の整備による利便性の向上が図られ、入込数の底上げに寄与したと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 19 年度の古城公園の観光客入込み数は平成 18 年度に比べ改善していることから、観光客入込み数の底上げに一定の効果があったと考えられる。
地域に根ざした文化資産を活用した都市再生プロジェクト事業の今後について	実施済み

⑥. まちづくり活動支援事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の観光情報と商店街情報等を発信する携帯サイトを運営するもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。

計画終了後の状況（事業効果）	これを含む情報発信事業の実施が、高岡の情報を気軽に得ることができる手段となり、市民意識調査における「中心市街地の情報発信」の効果に対して約2割の市民が肯定的で、改善されている評価をしており、肯定的評価の割合は平成18年の前回調査時点よりも8ポイント上昇していることから、中心市街地の観光スポットやイベント等の認知度向上、イメージアップに貢献した。
まちづくり活動支援事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑦. 都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業（事業主体：富山県）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路)) 平成22～23年度
事業開始・完了時期	平成22年度～【実施中】
事業概要	高岡駅前から山町筋までの区間のうち、無電柱化されていない区間について、無電柱化整備を行う。
目標値・最新値	山町筋重要伝統的建造物群保存地区内において、伝統的な土蔵造りの町並みを保存するため、伝統的建造物の修理事業及び非伝統的建造物の修景事業等を実施する。
達成状況	山町筋観光客入込み数 目標値 20,000 人 最新値 6,926 人
達成した（出来なかった）理由	目標値を達成できなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	現在、道路整備中であり、事業効果の発現が待たれる。
都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業の今後について	平成25年度末に完成予定

⑧. たかおか観光戦略ネットワーク事業（事業主体：たかおか観光戦略ネットワーク）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成17年度～【実施中】

事業概要	高岡市内の観光に携わる産学官の関係者によるネットワークを組織し、高岡市内の観光に関する諸課題を検討し、あわせて、即時性の高い課題について解決することにより、課題の解消を図るもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比で見ると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	これを含む情報発信事業の実施が、高岡の情報を気軽に得ることができる手段となり、市民意識調査における「中心市街地の情報発信」の効果に対して約 2 割の市民が肯定的で、改善されている評価をされており、肯定的評価の割合は平成 18 年の前回調査時点よりも 8 ポイント上昇していることから、中心市街地の観光スポットやイベント等の認知度向上、イメージアップに貢献した。
たかおか観光戦略ネットワーク事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

⑨. まちなか情報発信事業（事業主体：末広開発㈱）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 19～23 年度
事業開始・完了時期	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を中心とした商店情報、空き店舗情報、イベント情報の発信のため、ホームページ及びメーリングリストの管理運営及び地元のミニ FM 局「ラジオたかおか」からの情報発信を行うもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比で見ると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。

計画終了後の状況（事業効果）	これを含む情報発信事業の実施が、高岡の情報を気軽に得ることができる手段となり、市民意識調査における「中心市街地の情報発信」の効果に対して約2割の市民が肯定的で、改善されている評価をしており、肯定的評価の割合は平成18年の前回調査時点よりも8ポイント上昇していることから、中心市街地の観光スポットやイベント等の認知度向上、イメージアップに貢献した。
まちなか情報発信事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑩. コンベンション開催支援事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	コンベンション開催に伴い高岡市内に宿泊する者及びコンベンション開催費用の一部に支援するもの。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込人数 目標値 1,220,000人 最新値 1,184,889人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比で見ると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業を通じたコンベンション誘致により、年度によってばらつきはあるものの、2,000～5,000人の県外客が高岡市に宿泊し、平成23年度は3,287人が本制度を利用した。 コンベンション開催支援は、高岡来訪機会の創出となり観光客入込数の増加がもたらされている。
コンベンション開催支援事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑪. まちの駅ネットワーク事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成19～23年度
-------------	----------------------------

事業開始・完了時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	「まちの駅」は来訪者への情報提供、トイレ利用等の利便的な機能を持つ施設として、NPO法人により全国的な取り組みが行われている。 市内には22カ所のまちの駅が存在し、これらは市民や観光客に対し、中心市街地への来街者への気軽な情報提供の場として、活用が図られている。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	これを含む情報発信事業の実施が、高岡の情報を気軽に得ることができる手段となり、市民意識調査における「中心市街地の情報発信」の効果に対して約 2 割の市民が肯定的で、改善されている評価をしており、肯定的評価の割合は平成 18 年の前回調査時点よりも 8 ポイント上昇していることから、中心市街地の観光スポットやイベント等の認知度向上、イメージアップに貢献した。
まちの駅ネットワーク事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

⑫. コロッセのまちづくり事業（事業主体：高岡コロッセ実行委員会、高岡市、ほか、参加希望者）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	コロッセをまちづくりのツールとして、各種事業を展開する。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減

	<p>少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比で見ると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。</p>
<p>計画終了後の状況（事業効果）</p>	<p>本事業によるイベントの開催、他地域イベントへの参加、新商品の開発等を通じ、中心市街地への誘客および知名度向上に寄与している。</p> <p>平成 21 年に実施した「高岡 B 級グルメ博」には 2 日間で約 80,000 人の来場があり、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与していることや、市民意識調査において約 3 分の 1 の市民が「マンガ、コロッケ、映画ロケ地などの新しい資源を生かしたまちづくりが行われている」の問いに対して評価が高いことから、高岡市の知名度、イメージ向上、さらには観光客入込数増加に対しても効果が表れている。</p>
<p>コロッケのまちづくり事業の今後について</p>	<p>第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。</p>

⑬. 「近世高岡の文化遺産群めぐり」巡行バス事業（事業主体：（社）高岡市観光協会、高岡市）

<p>支援措置名及び支援期間</p>	<p>中心市街地活性化ソフト事業 平成 19～23 年度</p>
<p>事業開始・完了時期</p>	<p>平成 19 年度～【実施中】</p>
<p>事業概要</p>	<p>中心市街地の歴史・文化資産の観光地における利便性の向上を図るため、各文化資産を結ぶ「巡行バス」を運行する。</p>
<p>目標値・最新値</p>	<p>主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人</p>
<p>達成状況</p>	<p>達成できなかった。</p>
<p>達成した（出来なかった）理由</p>	<p>平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比で見ると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。</p>
<p>計画終了後の状況（事業効果）</p>	<p>本事業開始以降、乗車数は増加傾向にあり、平成 22 年度は 4,830 人が利用している。</p> <p>バス利用者調査から利用者のうち約半数は市民となっているが、残りの市外利用者については、巡行バスを利用することで行動範囲が広がり、観光訪問地点が増加することによって、1 人当たり 3 か所程度訪れていると見込まれ、延べ約 7,000 人の観光客入込数増加につながった。（3 カ所訪問は平成 18 年「観光客アンケート調査」より）</p>

「近世高岡の文化遺産群めぐり」巡行バス事業の今後について	実施済み
------------------------------	------

⑭. レンタサイクル事業（事業主体：末広開発株）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 19～23 年度
事業開始・完了時期	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地における買物と観光に便利な有料のレンタサイクルを、高岡駅北口および駅北側の文化遺産群に配置する。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業開始以降、利用者は増加を続けており、平成 23 年度は延べ 1,773 人が利用した。 利用者アンケート調査では、観光目的での利用者は、1 人当たり 2.5 カ所の中心市街地内観光地点を訪問しており、延べ約 4,500 人の中心市街地観光客入込数創出に貢献している。
レンタサイクル事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

オ) 高速交通体系の整備に関する事業

①. 高速バス運行事業（事業主体：イルカ交通(株)、加越能鉄道(株)）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	平成 20 年春に開通の東海北陸自動車道を活用し、名古屋と高岡及び呉

	西地域の都市を結ぶ高速バスを運行する。
目標値・最新値	主要観光施設における観光客入込み数 目標値 1,220,000 人 最新値 1,184,889 人
達成状況	達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少したことに伴い、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋の入込数は減少したことが要因として考えられる。しかし、対基準年比でみると引き続き増加基調にあり、目標数値に近い水準に達している。
計画終了後の状況（事業効果）	一日六往復の高速バスが開設され、観光入込客数の底上げに一定の効果을上げている。
事業の今後について	実施済み

3.今後について

1 期計画において観光イメージアップおよび中心市街地への観光客の呼び込みに一定の成果を上げており、各種取り組みの有効性が確認された。2 期計画においては、1 期計画で効果の認められた事業を継続するとともに、高岡御車山会館建設事業など、観光地の魅力向上に繋がる核となる施設の整備に取り組む必要がある。

同時に、各地点間の回遊性が弱く、必ずしも期待通りの相乗効果が発揮されなかった点を踏まえ、2 期計画においては、各拠点間を連結する機能をハード、ソフトの両面において充実させ、観光客が中心市街地内の各観光施設を回遊する仕組みを構築していく必要がある。

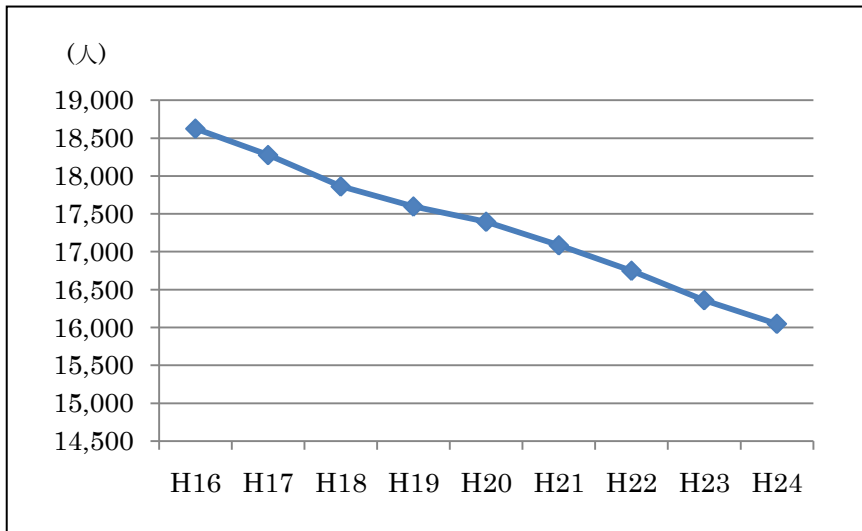
さらに、高岡市歴史的風致維持向上計画の国からの認定（平成 23 年 6 月）を契機として、歴史的建造物や伝統文化、工芸技術といった本市固有の特長を最大限に活かした取り組みを一層強化する必要がある。

個別目標

目標「まちなか居住の推進」

「中心市街地における居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P.51～P.54 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	17,597 (基準年値)
H19	17,396
H20	17,085
H21	16,749
H22	16,360
H23	16,048
H23	17,800 (目標値)

現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の自然減、および社会減が発生し、平成 22 年度終了時点において目標数値を下回っている。

特に、全市の自然減の 1/4 に相当する自然減が中心市街地において発生したこと、及び若年層、子供同居世帯の流出が進んだと考えられることから、まちなか居住支援事業による居住者の増加・下支え（約 200 人）、支援事業によらない集合住宅の建設による人口増加・下支え（下関地区で約 200 人）効果が損なわれる結果となった。

「まちなか居住支援事業」にかかる各種事業の実施は、中心市街地における居住人口の下支えに一定の役割を發揮したと考えられるものの、全体として中心市街地の居住人口を増加させるには至らなかった。しかし、平成 23 年度に建設を開始した「まちなか共同住宅建設促進事業」による 2 棟のマンションが平成 24 年度に完成することから、その効果の発現が待たれる。

※調査方法；地区別世帯数及び人口集計表から集計

※調査月；3月31日

※調査主体；高岡市

※調査対象；認定区域内に居住する人

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. まちなか住宅取得支援事業（事業主体名）

支援措置名及び	中心市街地活性化ソフト事業
支援期間	平成 21～23 年度
事業開始・完了	平成 19 年度～【実施中】

時期	
事業概要	<p>高岡市が認定した「まちなかの区域」で、一戸建て住宅の新築や建売住宅・分譲マンションの購入を行う個人に対し、借入金額の5%（限度額100万円）の補助を行う。</p> <p>なお、平成23年度からは、中古住宅・中古マンションの購入および隣接土地購入も支援対象に追加した。</p>
目標値・最新値	<p>中心市街地における居住人口</p> <p>目標値 17,800人 最新値 16,048人</p>
達成状況	<p>目標値を達成できなかった。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の自然減、および社会減が発生していること、まちなか居住支援に係る各種事業による効果が計画通りに上がっていないことから目標数値を下回った。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>本事業に対しては、平成23年9月時点で42件の利用申請があり、制度利用者の平均世帯人員数は3.8人となっていることから、約160人の居住人口増加・下支えに寄与している。</p>
まちなか住宅取得支援事業の今後について	<p>第2期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。</p>

②. まちなか共同住宅建設促進事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	<p>高岡市が認定した「まちなかの区域」で、一定要件を踏まえた4戸以上のアパート・マンションを建設した者に対し、1戸当たり100万円（限度額5,000万円）の補助を行う。</p>
目標値・最新値	<p>中心市街地における居住人口</p> <p>目標値 17,800人 最新値 16,048人</p>
達成状況	<p>目標値を達成できなかった。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の自然減、および社会減が発生していること、まちなか居住支援に係る各種事業による効果が計画通りに上がっていないことから目標数値を下回った。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>旧済生会病院跡地での分譲マンション建設及び旧家具店跡地での賃貸マンション建設が行われており、平成24年夏に完工予定のため、事業の効果は、2期計画期間中に発現する。</p>

まちなか共同住宅建設促進事業の今後について	第2期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。
-----------------------	-------------------------------

③. 優良住宅団地支援事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡市が認定した優良住宅団地において、土地を取得し住宅を建築する者に対し、取得した土地の面積に応じ、支援を行う（1㎡当たり4,400円、限度額100万円）。
目標値・最新値	中心市街地における居住人口 目標値17,800人 最新値16,048人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の自然減、および社会減が発生していること、まちなか居住支援に係る各種事業による効果が計画通りに上がっていないことから目標数値を下回った。
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地内のトークタウン中島において19件の利用申請があり、50人程度の中心市街地人口増加・下支え効果があった。
優良住宅団地支援事業の今後について	第2期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

3. 今後について

中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。したがって、2期計画においても、まちなか居住の推進には引き続き取り組んでいく必要がある。

中心市街地では、下関地区を除いて高齢者の人口割合が3割以上となっていることから、人口の自然減少が発生しやすい環境にはあるが、各種市の開催や日常生活に必要な店舗誘致を通じて生活利便を提供し、生活利便低下による高齢者の域外流出を防止するとともに、1期計画期間において、自然減以外にも若年層、子供同居世帯の流出が進んでいると推測される状況を踏まえ、これらの世帯の居住に適した魅力ある商業空間や子育てしやすい環境などの住環境の創出を引き続き実施していく必要がある。

地価が相対的に低下していることや、居住環境の改善が進んでいることを強みとして活用し、平成24年夏には、分譲マンションと賃貸マンションが完工されることや、平成23年11月に、

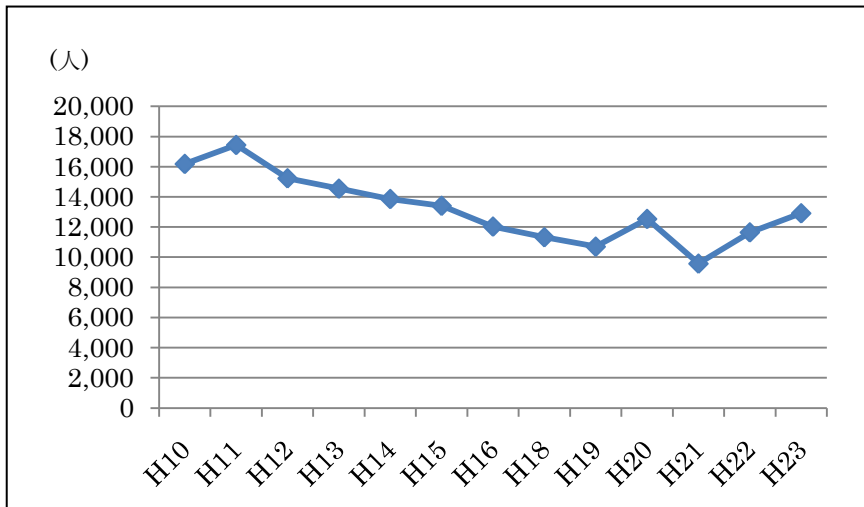
高岡サティ跡地にホームセンターと食品スーパーを複合した大規模商業施設がオープンし買物利便性が向上したことを、まちなか居住の起爆剤として、まちなかでの更なる住宅建設を2期計画において波及させていくことが求められる。

目標「中心商店街の賑わいの創出」

「中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」

※目標設定の考え方基本計画 P.55～P.63 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	11,326 (基準年値)
H19	10,702
H20	12,538
H21	9,577
H22	11,648
H23	12,913
H23	13,500 (目標□)

平成 23 年における中心商店街(6地点)の歩行者・自転車通行量は、基準となる平成 18 年比で 1,587 人/日(平日・休日平均)増加しており、目標数値に到達していないものの、長期的な減少傾向から歯止めが掛かっている。

※調査方法； 平日・休日の歩行者・自転車通行量を計測

※調査月； 10 月

※調査主体； 高岡市

※調査対象； 中心商店街(6地点)

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①. ウイング・ウイング高岡運営事業(事業主体：末広開発株)

支援措置名及び 支援期間	なし
事業開始・完了 時期	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	J R 高岡駅前において、公共公益施設・ホテル・飲食・業務による複合施設の運営を行う。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。

達成した（出来なかった）理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 16 年 4 月に開設し、1 日当たり約 3,400 人の利用者がある。 平成 23 年の調査では、ウイング・ウイング高岡の利用者のうち、36%が末広通り側の出入り口を利用していることから、中心市街地の回遊拠点として、少なくとも 1,200 人/日分と、末広通り西側の歩行者通行量の半数以上がウイング・ウイング高岡を起点に生み出されていることになり、中心商店街の歩行者通行量増加に対する貢献度は極めて高い。
ウイング・ウイング高岡運営事業の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

②. 末広町電停整備事業（事業主体：万葉線株）

支援措置名及び支援期間	鉄道軌道近代化設備整備費補助 平成 19 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度
事業概要	万葉線の利便向上のため、中心市街地の中心部に新たな電停を整備する。
目標値・最新値	中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかった

	ことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 20 年、および平成 21 年の調査では 1 日当たりの利用数は 100 人程度となっており、利便性が向上した。 歩行者通行量調査において、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間を結ぶ主要ルートである末広通り西側の通行量のみが大きく増加していることから通行量増加に寄与した。
末広町電停整備事業の今後について	実施済み

③. (仮称) わろんが横丁整備事業（事業主体：末広開発株）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	未実施
事業概要	高岡市では、平成 18 年から中心市街地活性化のための交流施設として、中心商店街活性化センター「わろんが」を開設しており、指定管理者制度により、TMOの末広開発(株)が運営を行っている。当施設の向かい側の空き店舗にもものづくりに携わる人や創業を試みる人のためのチャレンジショップを開設することで、集客拠点の拡充・強化を図る。
目標値・最新値	中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	未実施のため事業効果なし
末広町電停整備事業の今後について	継続して、関係者との事業構想の検討、調整をする。

いて

④. 駅地下芸文ギャラリー運営事業（事業主体：末広開発㈱）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 20～23 年度 富山県がんばる商店街支援事業 平成 18～20 年度
事業開始・完了 時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	J R 高岡駅前地下街において、まちづくり会社・末広開発㈱が運営主体となり、富山大学芸術文化学部と末広開発㈱、市が連携し、大学の教官や学生等が企画・立案した企画展の開催や、高岡発の新商品の展示・販売等を行う。
目標値・最新値	中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来 なかった）理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状 況（事業効果）	年間約 30 回の企画展を開催し、企画内容も、大学生の授業成果の発表や大学教員・生徒をはじめ、地元作家や企業の作品の展示・販売に加え、子ども向けのものづくり体験教室を行うなど、子どもから大人まで様々な人が楽しめる企画を行った。 これまで地下街では姿の見えなかった大学生などの若者が多く訪れるなど、年間 7,000 人の来場を創出し、地下街の魅力の向上と賑わい創出に効果を上げている。
駅地下芸文ギャ ラリー運営事業 の今後について	高岡駅周辺整備事業に伴い、高岡駅前地下街が一時閉鎖されることから、末広町に場所を移し第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

⑤. 市営オタヤグリーンパーキング設置事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業 平成 19 年度 まちづくり総合支援事業補助金(県) 平成 19 年度
-----------------	--

事業開始・完了時期	平成 19 年度
事業概要	第三セクター・オタヤ開発が所有する大型駐車場を市営化することで、中心市街地に立地する他の市営大型駐車場と回数券等の共通化を可能とし、利便性を高める。
目標値・最新値	中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。(達成率 95.7%)
達成した(出来なかった)理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	通年運営がなされた平成 20 年度以降、年間 70,000 台以上が利用しており、中心市街への来街に資する施設として機能しており、平成 22 年度は 71,040 台(1 日当たり約 200 台)の利用があった。 ・平成 23 年の来街者調査では、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオの両拠点間の双方向回遊性は 13.7%であることから、1 台当たり平均乗車人員数に基づく歩行者通行量創出効果は約 100 人と推定され、計画策定当初に見込んだ水準にほぼ近い効果を生み出している。
市営オタヤグリーンパーキング設置事業の今後について	事業完了により事業効果が現れており、今後は、他事業とのより一層の相乗効果を期待する。

⑥. 中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業(事業主体:末広開発株)

支援措置名及び支援期間	富山県がんばる商店街支援事業 平成 18~20 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度~【実施中】
事業概要	主に中高年齢層を対象とした商品の販売や講座、イベントの開催等を行い、中心商店街における賑わい拠点施設を運営する。
目標値・最新値	中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平

	<p>均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人</p>
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成 18 年にオープンし、カフェ機能を持つギャラリーとして、各種作家の展覧会を実施するとともに、地場製品の販売市やソフト事業を展開し、女性客を中心に、来街機会の促進に効果を上げている。</p> <p>本施設の前で運営される「おたや市」等のイベントには多くの来場があり、賑わい創出に寄与している。</p>
中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業の今後について	第 2 期計画でも同様の内容で継続して実施する予定としている。

⑦. 工房「手わざ」運営事業（事業主体：末広開発㈱）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 15 年度～
事業概要	末広町商店街内で、伝統工芸品の高岡銅器の彫金技術を公開する工房を運営する。
目標値・最新値	<p>中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値(H23)12,913 人</p>
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	<p>中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中</p>

	心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	市民意識調査において「伝統的なものづくりの特色を生かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、22%が改善されている評価をしていることから、本事業の実施が市民に定着してきており、ものづくりを見て楽しめる街中の施設として成果を上げている。
工房「手わざ」運営事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑧. まちなかギャラリー事業（事業主体：末広開発株）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 20～23 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	末広町通り、御旅屋通りの各商店のショーウィンドウを活用し、国指定伝統的工芸品である高岡銅器・高岡漆器を中心とした作品の展示を行い、ものづくりのまちの雰囲気醸成する。
目標値・最新値	中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	工房「手わざ」運営事業と同様、市民意識調査において「伝統的なものづくりの特色を生かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、22%が改善されている評価をしていることから、本事業の実施が市民に浸透し、成果を上げている。 また、各商店に展示された工芸品を見て回り、気に入った工芸品を購入した外国人観光客もいることから、通行量の増加に寄与してい

	る。
まちなかギャラリー事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑨. 高岡駅交通広場整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路)) 平成19～27年度
事業開始・完了時期	平成19～27年度
事業概要	高岡駅周辺整備事業の一環として、公共交通機関相互の乗り換え利便性の向上を図るため、万葉線を延伸し、JR高岡駅への近接化を行うもの。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500人 最新値 12,913人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	現在、整備中であり、事業効果の発現が待たれる。
高岡駅交通広場整備事業の今後について	第2期計画で継続して実施される予定である。

⑩. 氷見線移設事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成19年度 社会資本整備総合交付金(都市・地域交通戦略推進事業) 平成20～22年度
事業開始・完了	平成19～22年度

時期	
事業概要	高岡駅周辺整備事業の一環として、現駅の乗り換え利便性の向上を図るため、駅構内において他のホームから唯一はなれて設置されている同ホームの移設により集約化を行うもの。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	公共交通結節機能が向上により、歩いて暮らせるまちとしての機能が向上された。
氷見線移設事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑪. 高岡駅南駐車場整備事業(事業主体:高岡市)

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成18～21年度
事業開始・完了時期	平成18～21年度
事業概要	高岡駅南口近接地において、市営駐車場の整備を行い、あわせて、隣接する道路に歩道を整備するもの。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者

	数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	駐車場及び隣接する歩道を整備することにより、自家用車での来街者の利便性の向上及び安全な歩行空間の向上が図られた。
高岡駅南駐車場整備事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑫. 高岡駅前自転車駐輪場整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金 平成19年度
事業開始・完了時期	平成19年度
事業概要	高岡駅北口自転車駐輪場に屋根を設置する。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500人 最新値 12,913人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	雨天時の駐輪にも配慮された自転車駐輪場の整備に伴い、自転車利用者の利便性が向上された。
高岡駅前自転車駐輪場整備事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑬. 中心商店街活性化イベント開催事業（事業主体：末広開発株）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成19～23年度
事業開始・完了時期	イベントによる【実施中】

事業概要	TMO である末広開発(株)が小規模なイベントや販促事業等を開催するもの。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	市民意識調査において、中心市街地の現状について尋ねたところ、「祭りやイベント、朝市等の祭事」への評価が最も高かったことから、本事業の実施が市民に浸透し、成果を上げている。
中心商店街活性化イベント開催事業の今後について	第2期計画でも継続して実施する予定としている。

⑭. 個別商店街の活性化事業(事業主体:各商店街)

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成19～23年度
事業開始・完了時期	イベントによる【実施中】
事業概要	各商店街がそれぞれの特徴と商店街自らの工夫によって各種事業を展開し、来街者の増大を図り、まちなかにぎわいづくりや空き店舗の解消に努めるもの。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中

	<p>心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>市民意識調査において、中心市街地の現状について尋ねたところ、「祭りやイベント、朝市等の祭事」への評価が最も高かったことから、本事業の実施が市民に浸透し、成果を上げている。</p>
個別商店街の活性化事業の今後について	<p>第2期計画でも継続して実施する予定としている。</p>

⑮. 大規模小売店舗立地法の特例措置（事業主体：富山県）

支援措置名及び支援期間	<p>大規模小売店舗立地法の特例 平成19年度～</p>
事業開始・完了時期	<p>平成19年度～【実施中】</p>
事業概要	<p>中心市街地に見られる空き地・空き店舗の活用並びに老朽施設の建替え等を支援するため、富山県との協議により、中心市街地における特定施設に対し、大規模小売店舗立地法の特例措置を設けるもの。</p>
目標値・最新値	<p>中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500人 最新値 12,913人</p>
達成状況	<p>目標値を達成できなかった。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成23年度に富山県より第1種特例区域の指定を受け、高岡サティ跡地にホームセンターと食品スーパーを複合した大規模商業施設がオープンし買物利便性が向上した。今後のまちなか居住の起爆剤として期待される。</p>
大規模小売店舗立地法の特例措置	<p>第2期計画でも継続して実施する予定としている。</p>

置の今後について	
----------	--

⑩. 高岡ステーションビル整備検討事業（事業主体：㈱高岡ステーションビル）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	高岡駅周辺整備事業に伴い建替えが必要とされている高岡ステーションビルについて、今後の店舗運営に向けた事業計画を策定するもの。
目標値・最新値	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値 目標値 13,500 人 最新値 12,913 人
達成状況	目標値を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。「まちなか共同住宅建設促進事業」や「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」の実績がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業について十分な成果が得られなかったことが要因として考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	現在、計画を策定中であり、新高岡ステーションビル建設後の事業効果の発現が待たれる。
まちなかギャラリー事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

3. 今後について

通行量による賑わい創出においては、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間の回遊促進のための事業は効果が上がっており、拠点間の回遊性向上に向けた取り組みの有効性・重要性が確認された。したがって、回遊促進に向けた取り組みを継続実施する必要がある。特に、高岡駅の南北を結ぶ南北自由通路が開通したことにより、今後はこれまで十分でなかった駅南北の回遊促進に取り組み、回遊の範囲を広げていくことが重要である。

また、中心市街地への重要な誘引機能として「買物」「飲食」「仕事」といった要因が挙げられる。買物・飲食に関する店舗数については、開業支援制度等の実施により 1 期計画において

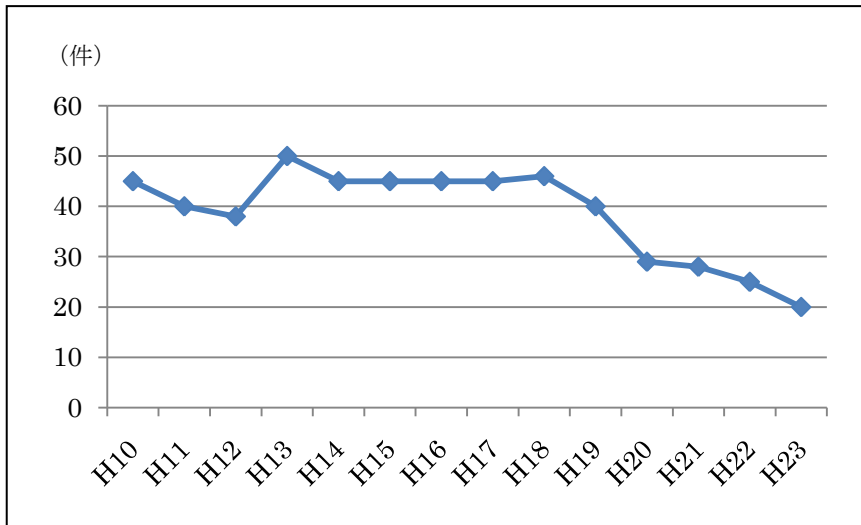
一定の成果をあげたものの、業務機能（仕事）については十分な成果を上げることができず、通行量増加に結び付かなかった。このため、飲食を含めた店舗数の増加（店舗誘致）に引き続き取り組むとともに、事業所の増加を図るための支援策の拡充に取り組む必要がある。

さらには、中心市街地内の居住者の減少が歩行者通行量の伸び悩みの要因の一つとなっており、まちなか居住の推進に取り組んでいく必要がある。

目標「中心商店街賑わい創出」

「中心商店街(4商店街)における空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P.64～P.67 参照

1. 調査結果の推移



年	(件)
H18	46
	(基準年値)
H19	40
H20	29
H21	28
H22	25
H23	20
H23	37
	(目標値)

計画実施後、平成 23 年 10 月までに中心商店街(4商店街)の空き店舗数は 46 店舗から 20 店舗に減少し、目標値を上回る水準となっており、大きな成果を上げた。

特に、「中心市街地における開業支援事業」により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られ、飲食店や若者向けファッション、雑貨店といった新たなジャンルの店舗が開業するなど中心商店街の魅力向上に繋がった。また、高岡商工会議所による「たかおか屋」や、末広開発(株)による「町衆スタジオ」のほか、高岡のものづくりや伝統産業を紹介するクラフトショップ「D. front」、「テクテクたかおか」など、高岡の歴史・伝統・文化が感じられる特徴ある店舗が中心市街地で展開されるなど、開業支援制度によらない店舗・施設の立地が促進されるという波及効果をもたらしている。

また、中心商店街の核施設である御旅屋セリオにおいても、開業支援事業によってテナント入居が促進され、御旅屋セリオの拠点性の維持・向上に貢献している

※調査方法；現地調査

※調査月；10月

※調査主体；高岡市

※調査対象；中心商店街（4商店街）

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 中心市街地における開業支援事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 21～23 年度
事業開始・完了 時期	平成 19 年度～【実施中】

事業概要	中心市街地における特徴あるまちづくりを推進するため、地域に応じた業種による開業を支援する。空き店舗を活用する開業者への家賃補助と改装費補助、空き店舗所有者への改装費補助を行い、新規開業を促進する。
目標値・最新値	中心商店街(4商店街)における空き店舗数 目標値 37 件 最新値 20 件
達成状況	目標値を達成した。
達成した(出来なかった)理由	「中心市街地における開業支援事業」により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られたことが考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	この支援制度を活用した中心市街地の開業は 34 件あり、中には和風カフェやネイルサロン、アロマ専門店などの若者向けのおしゃれな店舗も開店している。中心市街地の 4 商店街では、平成 23 年度までに、この支援制度を活用して 9 件が開業し、本事業の実施が空き店舗の店舗化に貢献した。 特に、平成 20 年度の開業支援制度の見直しにより、中心商店街での店舗改修補助の対象を新規開業者だけでなく店舗所有者にも拡充したことにより、貸し手に対する改修支援が 6 件あり、制度を活用した新規開業の促進に結びついた。 なお、中心商店街の 4 商店街の路面店の空き店舗解消ではないが、本制度により御旅屋セリオにおけるテナント新規開業も 12 件あり、御旅屋セリオの拠点性維持・向上にも大きく貢献している。
中心市街地における開業支援事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

②. (仮称) 高岡まちなか再生基金事業 (事業主体: 末広開発株)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	未実施
事業概要	中心市街地における老朽化が著しい建物のうち、修繕による活用が困難なものについて、一時取得、老朽化した建物の解体、建替え等を行い、新たな店舗展開が可能な物件に対応するため官民一体となった基金を設立するもの。
目標値・最新値	中心商店街(4商店街)における空き店舗数

	目標値 37 件 最新値 20 件
達成状況	目標値を達成した。
達成した（出来なかった）理由	「中心市街地における開業支援事業」により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られたことが考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	未実施のため事業効果なし
（仮称）高岡まちなか再生基金事業の今後について	継続して、空き店舗の開店手法に関する調査研究を進める。

③. 中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる既存店舗の改善を図るため、店舗のリニューアルを支援する。
目標値・最新値	中心商店街（4 商店街）における空き店舗数 目標値 37 件 最新値 20 件
達成状況	目標値を達成した。
達成した（出来なかった）理由	「中心市街地における開業支援事業」により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られたことが考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 23 年度までに 4 件の利用があり、本事業によって既存店舗の空き店舗化防止に一定の役割を發揮した。
中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業の今後について	第 2 期計画でも継続して実施する予定としている。

3. 今後について

中心市街地において賑わいが感じられるようになるには、来街者数の増加が重要なポイントとなるが、中心商店街における歩行者・自転車通行量と中心商店街の営業店舗数には強い正の相関関係がみられ、店舗数を増やすことが賑わい創出に向けて不可欠の要素である。

計画開始以降、中心商店街では、開業支援事業を活用した飲食店や物販店の開業があり、中

心商店街（4商店街）でも、衣料品店や和風カフェ、ネイルサロンが開店するなど空き店舗数は減少し、開業支援事業を中心にした取り組みに一定の成果があった。一方で、店主の高齢化などによる閉店により商店数は減少したため、市民の意識の中では中心市街地の賑わい創出を感じることができないといった評価もある。

したがって、2期計画においては、引き続き開業支援事業に積極的に取り組み、制度の継続・拡充を図りながら、中心商店街での開業意欲を喚起し、空き店舗の減少による中心市街地の賑わい創出を図る必要がある。